# 月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.43



## 『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』の最新情報が到着！

## 『軌跡』シリーズ 10年の軌跡

今月はスペシャルイラスト＆第1話ネームをちょい見せ!!

## コミカライズ版『閃の軌跡』

jdkバンド
ボーカル・コテカナの

## コテ放題♥

## ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばりますの舞台裏

## ファルコムニュース

ファルコムjdk バンド
ドラマー・オカジの

## 人生半キャラずらし

## 『閃の軌跡 帰郷～迷いの果てに～』シナリオ

まさかの(!?)TVアニメ第2期が決定!!

# みんな集まれ！ファルコム学園

新久保先生からのコメントもあるよ！



FALCOM MAGAZINE

# CONTENTS

# THE LEGEND OF HEROES 閃の軌跡Ⅱ センノキセキⅡ の最新情報が到着!!

**いよいよ『閃Ⅱ』の発売まで1ヶ月を切り、キャラクター紹介も最後。最後はやっぱり、『軌跡』シリーズを代表する“あの人”だ！**

## キャラクター紹介のトリを務めるのはやっぱりこの人！



悪いが、トリは我々が頂かせてもらうよ……！

### オリヴァルト皇子

CV：子安武人

27歳

エレボニア帝国の皇帝・ユーゲントⅢ世の長子。庶子でもあるため、皇位継承権は破棄している。美や芸術を愛する風流人で、国民からの人気も高い。２年前にリベール王国へ赴き、そこで遊撃士のエステル、ヨシュアらとともに、結社《身喰らう蛇》の「福音計画」に遭遇する。彼らとともに結社の計画を阻止し、帝国に戻ったことで、一躍時の人となった。帝国内で繰り広げられる、貴族派、革新派の対立に与さない“第三の勢力”を模索しており、リィンたち「特科クラスⅦ組」の設立を決めたのも、オリビエの策のひとつだった。前作のラストで起こった貴族派のクーデターを発端とする内戦の中、高速巡洋艦《カレイジャス》とともに、行方不明となってしまっている。









●製品情報
●タイトル　：英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ
●発売日　：2014年9月25日(木)
●ジャンル　：ストーリー RPG
●対応機種　：PlayStation®３、PlayStation®Vita
●プレイ人数：1人
●価格　：
限定ドラマＣＤ同梱版(PS3)：8,800円
通常版(PS3)：7,800円
通常版(PS Vita)：6,800円
限定ドラマCD同梱版（PS Vita）：7,800円
※価格はすべて税抜。
●CEROレーティング：B



“力”と“剣”は己の続きにあるものに過ぎぬ。

### ヴィクター・S・アルゼイド子爵

CV：安元洋貴

43歳

クロイツェン州にある街・レグラムを治める貴族。《Ⅶ組》に所属するラウラの父親でもある。帝国を代表する武門《アルゼイド流》の筆頭伝承者で、「光の剣匠」とも呼ばれる帝国最高の剣士のひとり。前作では、自身の奥底に眠る力を恐れていたリィンに対し、力の在り様を説いた。オリヴァルト皇子の考えに賛同し、カレイジャスの艦長を引き受けていたが、ヴィクターもまたオリヴァルトと同様、行方知れずとなってしまっている。










いや〜、さすがに魂消ちまったぜ。

### レクター・アランドール

CV：森田成一

22歳



帝国政府二等書記官の肩書きを持つ青年。しかしその本分は、オズボーン宰相のもとで数々の工作をこなす《鉄血の子供たち（アイアンブリード）》のひとり。一見、飄々とした適当な男だが、いままで極秘裏で幾度と無く行われた交渉をすべて成功させてきた凄腕のエージェント。オズボーンが狙撃された時は、クロスベル自治州に滞在していた。



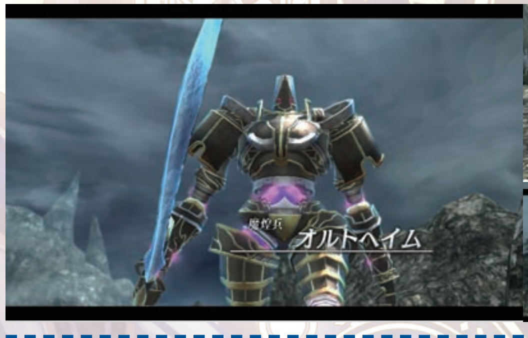
# はやくも序盤のストーリーが公開！

衝撃のラストとなった前作から直接繋がっている今作。今回は、序盤のストーリーが公開されたぞ。その一部を順に追ってみよう。






≪トールズ士官学院≫での死闘の末、クロウの駆る騎神オルディーネに敗北したリィン。騎神ヴァリマールは自身とリィンの危機を受け、その場から飛び去って行った。1カ月後、リィンは故郷の里・ユミルにほど近いアイゼンガルド連峰の中腹で目を覚ます。判然としない意識のままリィンはⅦ組の仲間を救うため、セリーヌの忠告を無視し、山岳地帯を進んでいく。








峡谷を下り、ユミルの近くまでやってきたリィン。だがそこへ、巨大なゴーレム「魔煌兵」が現れる。暗黒時代に造られたと言われ、魔導の力で動くゴーレム・魔煌兵は、リィンを急襲。ひとりで戦うリィンだが、そこへある意外な人物が助けに訪れるのであった。







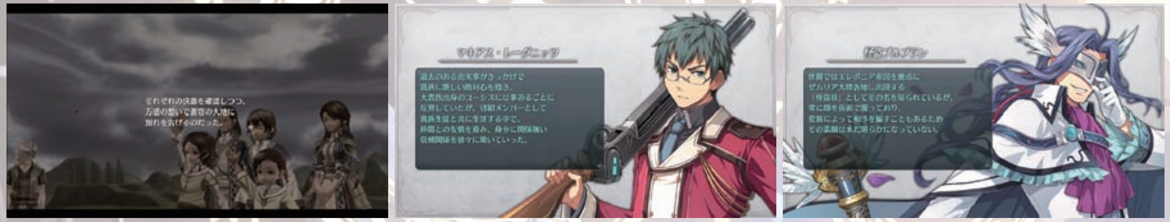

リィンが目を覚ますとそこは、自身の故郷・ユミルだった。そこには、義妹のエリゼやシュバルツァー男爵夫妻。そして、アルフィン皇女の姿があった。帝都にいたはずのエリゼとアルフィンは、遊撃士トヴァルが助け出し、ここユミルへと連れて来ていたのだった。再会の喜びを分かち合うリィンたちだったが……。

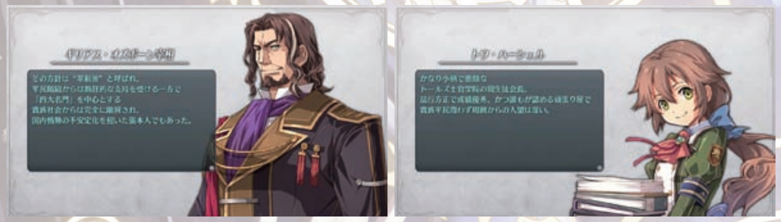


# 便利な新機能やミニゲームの情報も！

『閃の軌跡Ⅱ』では、前作で搭載されていた機能はもちろんのこと、新たな機能やミニゲームも多数登場するぞ。これらの機能を使いこなし、ミニゲームも遊びつくそう！





『閃の軌跡』の直接の続編となる今作では、いつでも前作のストーリーを思い返すことができる「プレストーリー機能」が搭載されているのだ。気になるキーワードや、うろ覚えな情報があった場合は、この機能を使ってみると便利だぞ。




今回は20名以上のパーティーキャラクターが登場するということで、シャロンやトワ、クレアにトヴァルなど、料理を作れるメンバーも大幅に増えるぞ。




街や街道、ダンジョンと、いたる所ですることができる釣り。今作の「釣師ランク」は、青銅釣師（ブロンズアングラー）から最上級の白金釣師（プラチナアングラー）まで　数段階用意されているとのことだ。

# 『軌跡』シリーズ 10年の軌跡

## 第3回『軌跡』の世界で暗躍する"あの組織"をおさらい！

**『軌跡』シリーズ10周年企画の第3回。今回は、ゼムリア大陸で暗躍を続ける結社≪身喰らう蛇≫を改めておさらいしよう。**

**結社≪身喰らう蛇≫とは？** 「盟主」と呼ばれる存在をトップに置き、ゼムリア大陸で暗躍する謎の組織。「盟主」が予言した≪オルフェウス最終計画≫を進めているが、その詳細は一切の謎に包まれている。『空の軌跡』では、リベール王国に眠る空の至宝≪輝く環（オーリ・オール）≫を復活させ、≪福音計画≫を遂行。『碧の軌跡』では≪幻焔計画≫の第一段階として、幻の至宝に代わり、新たな至宝を生み出そうとするクロイス家に協力。

**現時点で分かっている主要な≪身喰らう蛇≫のメンバーたち** ≪身喰らう蛇≫は「盟主」と呼ばれる存在を頂点に、各計画を主導する「使徒」、その実働部隊である「執行者」と、様々な存在が確認されている。ここでは現時点で判明しているそれらの人物を紹介しよう。陥れた。

### 盟主

≪身喰らう蛇≫の首魁。包容力のある話し方をする人物で、使徒たちからの信頼も厚い。

### 使徒第1柱

使徒の中のまとめ役を務めているであろう人物。詳細は不明。



### 使徒第2柱 ≪蒼の深淵≫ヴィータ・クロチルダ

『閃の軌跡』に登場。エレボニア帝国内での≪幻焔計画≫を主導している人物。トールズ士官学院のあるトリスタではミスティという名でラジオパーソナリティをしていた。また、帝都歌劇場では歌姫としても活躍していた。Ⅶ組メンバーのエマ・ミルスティンとは浅からぬ関係があるようだが……？



### 使徒第3柱 ≪白面≫ゲオルグ・ワイスマン

『空の軌跡』に登場。考古学者・アルバ教授と身分を偽り、リベール国内に潜入していた男。「ハーメルの悲劇」で心が壊れたヨシュアを引き取り、自身の目的を達成させる人形へと人格を造り変えた外道でもある。七耀教会の守護騎士ケビンにより殺害されるが、その予言は「盟主」から授けられていなかった……。



### 使徒第3柱 マリアベル・クロイス

『零／碧の軌跡』に登場。ワイスマン亡き後、その空いた席へと座った新たな使徒。魔都クロスベルにおいて千年もの間、人造至宝の精製を試み続けてきた錬金術師の一族の末裔。自身の目的には余計な情念を持ちこまないタイプで、特務支援課に所属する親友のエリィとの敵対も、「必要なこと」と割り切り対峙した。

### 使徒第4柱

軽い若者口調が特徴的な人物。詳細不明。

### 使徒第5柱

老年を思わせる口調が特徴的な人物。詳細不明



### 使徒第6柱 F・ノバルティス

『碧の軌跡』に登場。結社の技術開発機関≪十三工房≫の管理人。技術の応用・転化の天才で、ヨルグ・ローゼンベルクの開発したゴルディアス級人形兵器を昇華させ、レンの≪パテル＝マテル≫を造り上げた。自身の研究・開発のためなら、人の命でさえまったく意に介さないマッドサイエンティスト。



### 使徒第7柱 ≪鋼の聖女≫アリアンロード

『碧の軌跡』に登場。義を重んじ情に厚く、騎士の中の騎士と言うべき女性。得物である騎乗槍の一撃は、作中でも屈指の強さを誇る。また≪鉄機隊≫と呼ばれる、彼女自身が見出した若き女性騎士を従えており、それぞれが執行者に比肩する実力を持っている。『碧の軌跡』では、エレボニア帝国救国の英雄リアンヌ・サンドロットとの関係も示唆された。



## 執行者No.0
## ≪道化師≫カンパネルラ

『空の軌跡』より登場。他の執行者とは違い、「計画の見届け人」として、各計画に参加する人物。一見、少年のような外見だが、見た目通りの年齢ではないらしい。本人曰く、さほど戦闘能力はないとのことだが、トリッキーな幻術で、特務支援課と対峙したこともある。



## 執行者No.Ⅰ
## ≪劫炎≫マクバーン

『閃の軌跡Ⅱ』に登場。≪焔≫を武器に戦うタイプの執行者。その実力は、アリアンロードに匹敵するとも言われている。≪幻焔計画≫のためにエレボニア帝国へ訪れるが、どのような活躍をするかはゲームの発売を待とう。その力は、リィンにも関係しているとのことだが……。





## 執行者No.Ⅱ
## ≪剣帝≫レオンハルト

『空の軌跡』に登場。圧倒的な剣技を誇る実力者。ヨシュアの姉・カリンとは恋人同士で、ヨシュアの兄的存在でもあった。「ハーメルの悲劇」でカリンを喪ったことに絶望し、執行者入りをする。結社と対峙するヨシュアとの戦いの中、和解を果たすものの、ワイスマンの攻撃により死亡。



## 執行者No.Ⅵ
## ≪幻惑の鈴≫ルシオラ

『空の軌跡』より登場。シェラザードとともに、ハーヴェイ一座に所属し各地で興行を行っていた。親子ほど年の離れた座長を愛するものの、それを拒絶されたことで彼を殺害。その後、執行者となる。鈴を使った幻術と、陰陽による式神の使役が攻撃スタイル。



## 執行者No.X
## ≪怪盗紳士≫ブルブラン

『空の軌跡』より登場。作中でも屈指の登場回数を誇る執行者。「美の解放者」を自称し、各国で怪盗行為を繰り広げている。そのスタイルは予告状を送り、誰も傷つけずに鮮やかに盗む、というもので、毎シリーズのサブクエストでもお馴染みだ。

## 執行者No.XIII
## ≪漆黒の牙≫ヨシュア・アストレイ

『空の軌跡』より登場。本シリーズの主人公のひとり。「ハーメルの悲劇」により心が壊れてしまったところをワイスマンに拾われ、執行者となった。対集団戦や隠密活動に特化した戦闘スタイルで、一度作戦行動に入ると彼を補足することは不可能に近い。現在は遊撃士として、結社とは対峙する立場にある。

## 執行者No.XV
## ≪殲滅天使≫レン

『空の軌跡』より登場。幼い頃に≪D∴G教団≫に誘拐され、その実験体となっていたところを、レーヴェとヨシュアに助けられ、執行者となる。あらゆることにおいてその本質を掴み、自分のものとしてしまう天性の素質の持ち主。ノバルティスの造った≪パテル＝マテル≫をパートナーとしていた。



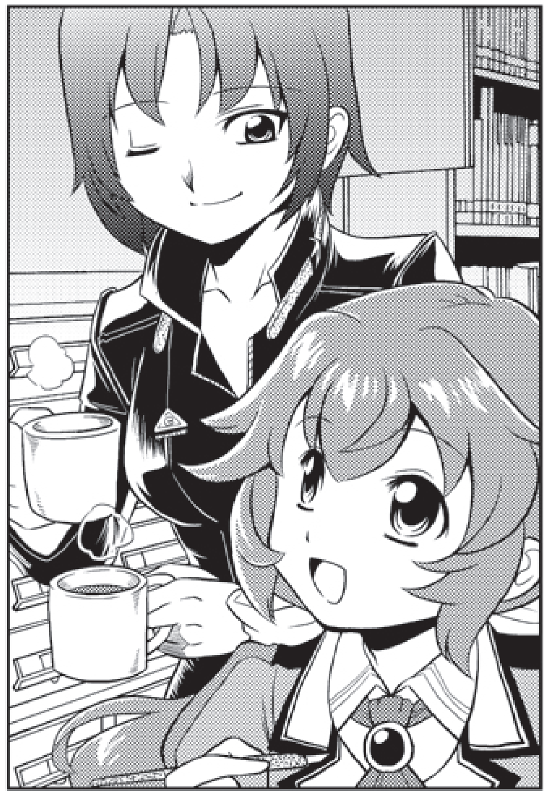


## 執行者No.Ⅷ
## ≪痩せ狼≫ヴァルター

『空の軌跡』に登場。東方由来の格闘術である泰斗流の使い手。ジン、キリカとは同門の仲だった。己の強さと、強敵との死闘にしか興味を示さない戦闘狂。その危うさゆえ、師匠のリュウガは決闘を持って彼を諫めようとするが、逆に殺されてしまう。

## 執行者No.Ⅸ
## ≪死線≫シャロン・クルーガー

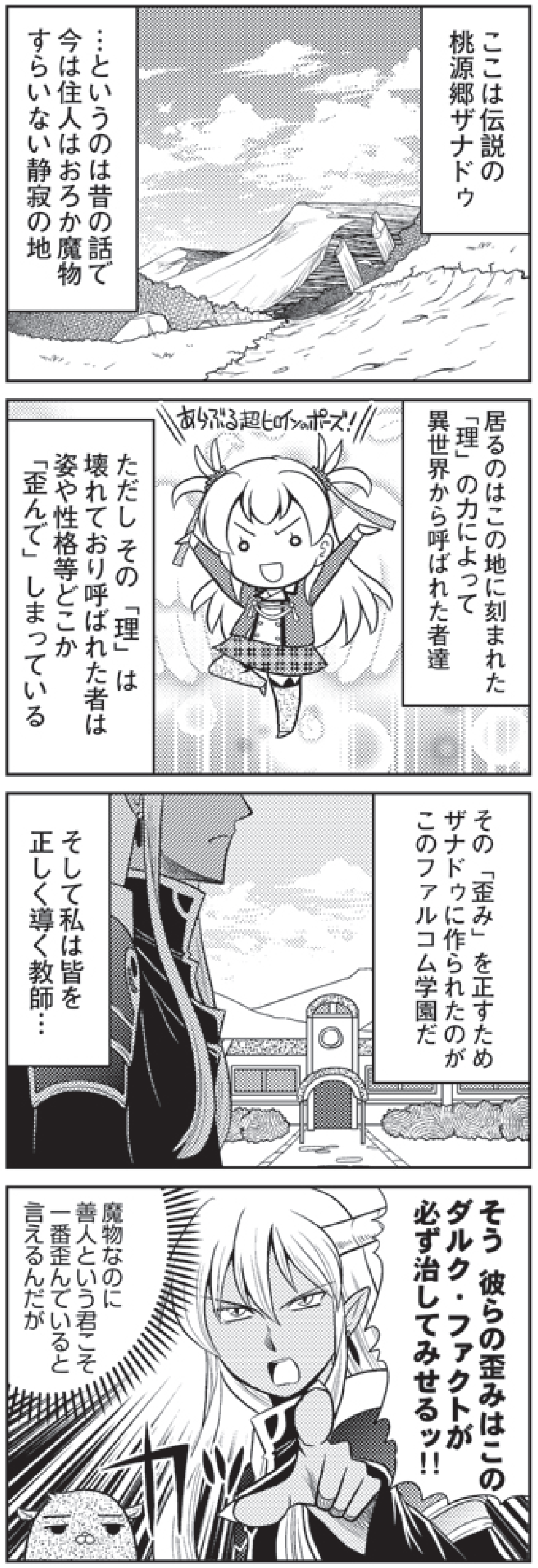
『閃の軌跡』より登場。武器は鋼糸とダガー。。執行者入りの経緯は不明。現在は「休業中」としているが、2年前に起こった「帝国ギルド襲撃事件」では、当時遊撃士だったサラと対峙した過去を持つ。現在は、ラインフォルト社の会長秘書としての一面が強く、Ⅶ組の活動を甲斐甲斐しく世話をするスーパーメイド。



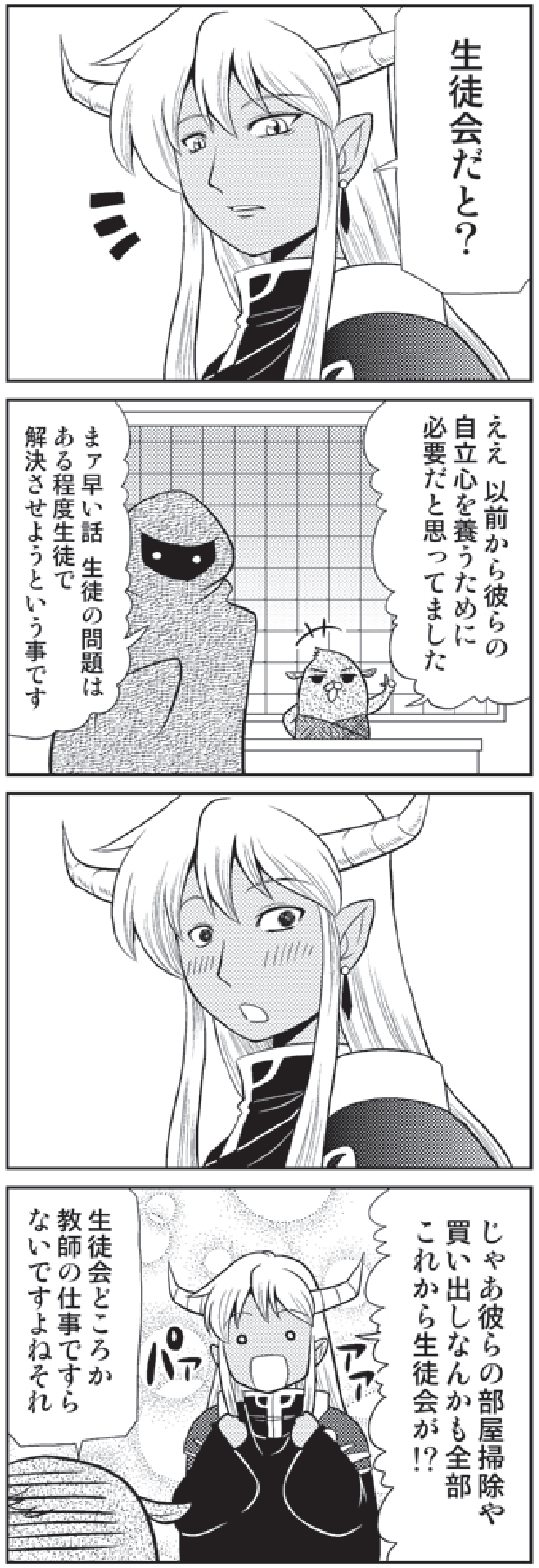
# みんな集まれ！ファルコム学園

新久保だいすけ

## 先生の決意




## 生徒会の仕事



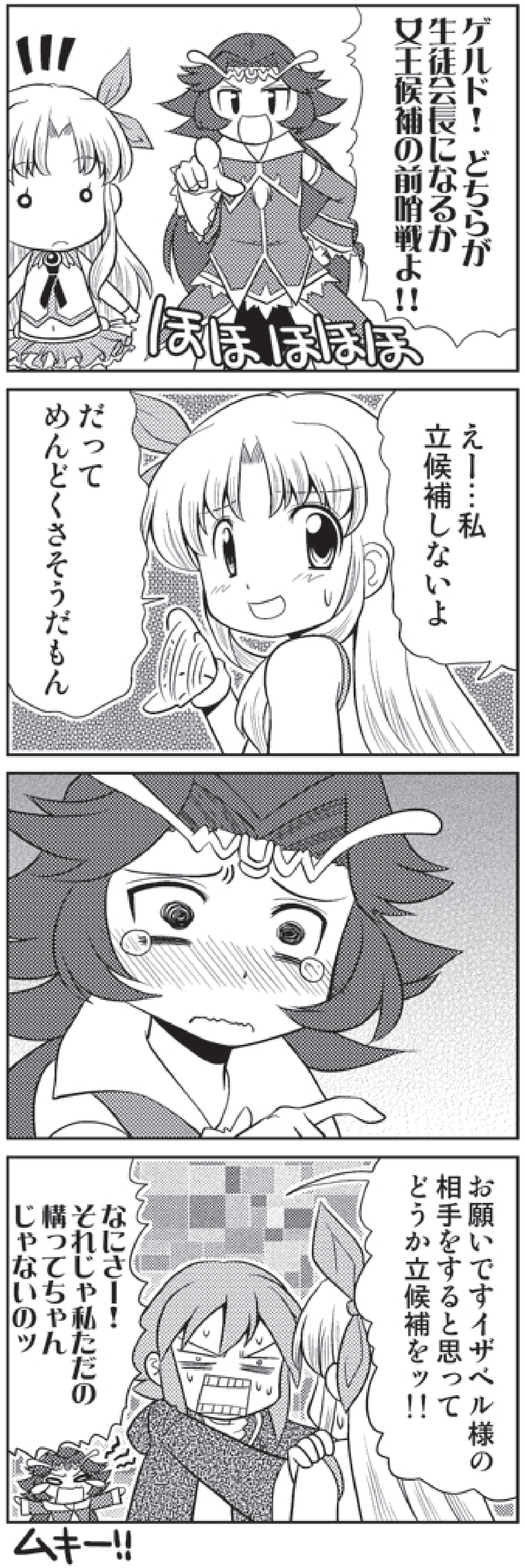

## 続・生徒会の仕事



## 校長にできる事




## 魔法少女と生徒会長




## 立候補の条件




## チェスターの決意



## 委員長の公約




## 冒険家の公約




## 裏




## 工作



## 会長はキミだ！




## 存在感




## 優秀な人材




## もしも俺が会長なら



# 目指せ！ファルコム一番星!!

日本ファルコムの人気キャラクター達が繰り広げるオールスターギャグ四コマの暴走は止まらない！　まさかのアニメ化でますますヒートアップ（？）するファルコム学園に君も入学してみないか!?










みんな集まれ！
## ファルコム学園①②
著者：新久保だいすけ

価格：893円（税込）
ISBN:978-489610-245-1

**好評発売中!!**



発行：フィールドワイ
発売：メディアパル

フィールドワイのHPはこちら→ www.field-y.co.jp

# みんな集まれ！ファルコム学園
# アニメーション第2期決定！ ＆ 単行本第3巻10月発売!!





日曜夜にゴーファイ！旋風を巻き起こしたテレビアニメーション『みんな集まれ！ファルコム学園』が、2015年再び帰ってくる！
そして、その2ヶ月ちょい前の2014年10月にはコミック単行本第3巻の発売が決定！
今年の秋から冬にかけて熱く燃え上がること必至な展開に、新久保センセイも大興奮だ！
そんなワケでさっそく、喜びの声をもらったぞ！！



## アニメ第2期へのコメント

第1期が終わって、しばらくしてこのお話を伺ったとき正直耳を疑いましたが、どうやら本当のようですよ奥さん! 個人的にも前回以上に色々なキャラを出していただけることを期待しています! ゴーファイ!!

## コミック単行本第3巻へのコメント

お待たせいたしました、ついに3巻目です！ ガガーブトリロジーや閃の軌跡など、今まで以上に新旧ごちゃまぜでお送りいたします！ タイトルカットのコメントも楽しんで書きましたので是非読んでくださいね！

続報はまた、ファルマガでもお届けする予定！　乞うご期待！！



FB ファルコムBOOKS
これを読むまで
しぬでないぞ!!
『月刊 Falcom magazine』に掲載された読み切りコミック 13 本を完全収録したコミックアンソロジーがついに登場！ 新旧ファンも納得のラインナップで贈る、ファルコム愛溢れる1冊を是非ご堪能あれ！
カバーは『英雄伝説空の軌跡』コミカライズを担当した啄木鳥しんき先生の豪華描き下ろし♪
好評発売中!!
収録テーマ作品
『イース』
『ブランディッシュ』
『ヴァンテージマスター』
『ぐるみん』
『ザナドゥネクスト』
『軌跡シリーズ』
ふぁるこむコミックざんまい
価格：本体920円＋税
ISBN 978-4-89610-818-7
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp



FB ファルコムBOOKS
空の軌跡外伝
レーヴェ物語
作画：楽時たらひ 脚本：田沢大典
もうひとつの
『空の軌跡』が始まる――
原作：日本ファルコム
（『英雄伝説 空の軌跡』）
価格：893円(税込)
ISBN:978-489610-224-6
『英雄伝説 空の軌跡』の人気キャラクター・《剣帝》レオンハルトの過去を描くアウターストーリーのコミカライズ。彼はいかにして《身喰らう蛇》に与みし、数奇な運命を辿ったのか。レオンハルトの目線から見たもうひとつの『空の軌跡』の物語が始まる！ ©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
全国書店にて大好評発売中!!
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp



## 岡島俊治（Okaji）

1979年6月9日生まれ
ドラマー/パーカッショニスト/作曲、編曲家/プロデューサー
洗足学園短期大学器楽科打楽器専攻卒業。
2000年、ロックバンド『HeadPhonesPresident』のドラマーとしてデビュー。
2005年、同バンド脱退後はフリーミュージシャンとしての活動を開始。様々なアーティストのサポート、レコーディング、プロデュース等を行う。
2008年より『ファルコムjdkバンド』に参加。
主な共演歴：jdk BAND、Sixh.Opera、HeavensDust、野宮真貴、植村花菜、CORE OF SOUL、DENIAL、安藤裕央、清田愛未、中村幸代、一純悠人、momokomotion、越尾さくら…etc

# 人生半キャラずらし

**jdkバンドのドラマー・オカジがファルコムと音楽と人生について熱く語ります！**

## 「軌跡jdkアクースティックス～制作秘話前編～」



暑い。もう、暑くて溶けそうである。

残暑も厳しく、まだまだ夏真っ只中ではあるが、今日は早くも僕の夏の思い出の話である。

人に「この夏の思い出は何か？」と問われれば、僕の答えは一択。何を隠そう「軌跡jdkアクースティックス」と答える。何しろ５月末からつい先日まで、この制作にかかりっきりであったのだ。今回の「人生半キャラずらし」はこの「軌跡jdkアクースティックス」について収録曲それぞれの制作秘話も交えながら暑く熱く語っていきたいと思う。

**「The Fate of The Fairies（英雄伝説 空の軌跡）」**

ライブでもお馴染みの空の軌跡の名戦闘曲。ただし、アレンジは全然違う。そもそも、メロディーは「空の軌跡」をモチーフにしている楽曲なので、こういうメロウなアレンジにも良く合うわけだが、何故だか僕がアレンジするとブランディッシュの中の曲みたいになってしまう。これはもう育ちの問題かもしれない。ファルコムの加藤会長からプレゼントして頂いた壺（ウドゥという立派な楽器）のサウンドが特徴的。今も昔もファルコムと言えば壺なのである（謎）。

**「Maybe it was fated（英雄伝説 空の軌跡）」**

ベースの王子こと榎本敦によるオシャレアレンジ版。今回、彼のアレンジ楽曲は全部、彼自身がディレクション＆ミックスまでこなしている。実際、僕のパーカッションのサウンドは彼がミックスしたやつの方が僕自身好みだったりする。自分自身の音って実は俯瞰して聴くのが一番難しい。セルフプロデュースって大変なんですよね。




**「クロスベルの午後（英雄伝説 零の軌跡）」**

先日ロフトプラスワンで開催された「Falcom Acoustic Live & TalkShow」でも披露された零の軌跡の名曲。以前、このコラムでも紹介しましたね。この楽曲に対する思い入れなどはバックナンバーを読んで頂くとして、今回の録音では演奏も慣れているし一番楽に完成するのではと高を括っていたのだが、結局一番煮詰まって納期前日までミックスが終わらなかったという……。油断大敵な一曲（なにそれ）。

**「パンドラ（イースⅥ～ザ・ソングス・オブ・ゼメス）」**

何故「軌跡」とタイトルが付いているのにも関わらず、Ｙｓのこの楽曲が収録されているのか。何故ならこれは、そもそもはボーナストラックにする予定だった楽曲なのだ。そしてこの楽曲こそ、ライブでもお馴染みでアコースティックでも度々演奏しているので、結果的に慣れた感じの良い出来になり、タイトルの「軌跡」からは少し離れるが、ボーナストラックと呼ぶには惜しい！　せっかくなのでちゃんと収録しよう、という事になったのだ。この曲も王子がディレクション＋ミックスを担当している。

**「セルリアンブルーの恋（英雄伝説 零の軌跡 Evolution）」**

今回のプロジェクトで一番最初に制作に取り掛かった楽曲のひとつ。この曲のこのアレンジとミックスが今作品全体の方向性を決定したと言っても過言ではない。コテカナがまさに自分の耳の側で囁くような臨場感に仕上がっていると思う。また原曲とは違った少しミステリアスで神秘的なアレンジになったのは、きっと僕の育ちのせいである。きっとそうなのである。どうりで何処かブランディッシュ……（以下略）。

さてさて、いつの間にか紙面がギリギリである。軌跡jdkアクースティックスについてまだ半分しか書けていないし、まだまだ語りたいことは山ほどあるのだ！　来月に続きます！　では！

『軌跡jdkアクースティックス（音響空間）』

目の前で、自分のためだけに、生で演奏しているような「リアルな音響空間（Acoustics）」を再現！
業界初の「ハイレゾ音源」による録り下ろしアルバム！

■配信日：2014年8月27日（水）
■データ仕様：96kHz／24bit（WAV＆flac）
■価格：アルバム／2,800円（税込）単曲／350円(税込)
■ハイレゾ音楽配信サイト
<e-onkyo music> http://www.e-onkyo.com/music/
<mora>ハイレゾ配信ページ http://mora.jp/index_hires

≪Falcom jdkバンドライブ特設サイトURL≫
**http://www.falcom.co.jp/jdk/fa_live.html**

「Ⅱ」が光る!!






▼はぐはぐティオ

## 東京ゲームショウ 2014 ファルコム出展情報

### ファルコムゲーム最前線!!

場所：幕張メッセ　期間：9月20日（土）～21日（日）
※各種プレイガイド・コンビニにて前売りチケット発売中

年に一度の祭典、東京ゲームショウに今年もファルコムが出展決定！　ブースではLED50個を使用した『閃の軌跡Ⅱ ピカピカバッグ Evolution』を無料配布、持ち歩けば会場の注目の的に!?また、発売前に『閃Ⅱ』を一足早く遊べる試遊台でゲームをプレイしてくれた方全員には『閃Ⅱ』で使える「はぐはぐティオ＆はぐはぐレン限定DLCカード」をプレゼント。その他盛りだくさんのイベント情報は特設サイトで要チェック！→（http://www.falcom.com/sen2/event/tgs2014.html）




## 軌跡jdk アクースティックス

### 生演奏のようなリアルな音響空間

今年で10周年を迎えた『軌跡』シリーズと1990年から続く「Falcom jdk BAND」の軌跡を振り返り、「高解像度な音源で超リアルな音響を再現」することをテーマにしたアルバムがハイレゾ音源配信サイト「e-onkyo music」「mora」で発売！

まるで耳元で演奏してくれているようなリアルな音でこのアルバムのために厳選された楽曲が楽しめる。e-onkyo music、moraハイレゾ配信ページにて配信中。

# ▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！




▲空の軌跡
革製キーリング
―10th Anniversary ver.―

▲軌跡シリーズ
10周年記念
ピンズ

## ファルコム展、開催！

### ファルコムの歴史を渋谷で体験!

『軌跡』シリーズ10周年を記念して、マルイシティ渋谷で「ファルコム展」を開催！　大人気の『軌跡』『イース』シリーズや過去の作品の貴重な資料、ファン必見のお宝グッズ展示などお楽しみが盛りだくさん。会場内には期間限定の「ファルコムショップ」もオープン！　会場限定の新作グッズも多数登場する。また、期間中の会場内では新旧様々なファルコム楽曲を放送予定。ファルコム空間に浸って楽しもう！

場所：マルイシティ渋谷　9F
期間：9月12日（金）～28日（日）

▼閃の軌跡Ⅱ
どデカ全身タペストリー



▶イース
ブルーネックレス
限定ver.



▶イース
イビルリング
限定ver.



『軌跡jdk アクースティックス CD版』も販売！




**2011年10月から好評配信中のWEBラジオ『ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります』の舞台裏をこっそりお届け♪**

**ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります**
■**配信日**　毎週金曜日、公式HP、ランティスラジオ、ニコニコ動画にて更新。
■**メインパーソナリティ**　水橋かおり（『碧の軌跡』ティオ・プラトー役）　小寺可南子（『ファルコムjdkバンド』ボーカル）
■**公式ホームページ**　http://www.falcom-radio.com/

## 第141回-第143回　浅野真澄（『碧の軌跡Evolution』ノエル・シーカー役）

141-143回のゲストは、『英雄伝説 碧の軌跡Evolution』でノエル・シーカー役を演じる浅野真澄さんが二度目の登場となった。前回の放送では、パーソナリティのみなさんがタジタジとなる赤裸々トークを繰り広げたが、今回は『碧Evo』発売直後ということで、ノエルにもたくさんスポットが当てられた収録となった。また、141回のオープニングトークコーナーでは、小寺さんの誕生日をお祝いするために、支援課見習いのふたりが小寺さんへのお便りを披露。「小寺さんを泣かせよう」という狙い通りの結果となった。

### ▶第141回-第143回の舞台裏◀

泣いたり笑ったりと、毎回狙い通りのリアクションを取ってくれる小寺さん。だからこそ、打ち合わせ無しのガチドッキリを仕掛けてしまうというサイクルは、小寺さんを愛するからこそ？　その豊かな感受性が、小寺さんをjdkバンドのディーバたらしめているのかもしれない……!?

## 第144回　なし（おたよりスペシャル）

144回は、今まで読むことができなかったおたよりを、時間が許す限り読んじゃうおたよりスペシャルin Summer前編。初めてのおたよりから、常連ハガキ職人さんのものまで、たくさんのおたよりが読まれていった。また、特務しれん課のコーナーでは久しぶりに支援課見習いのふたりが、ファルコム的大喜利にチャレンジ！　結社《身食らう蛇》の「ウロボロス」をキーワードに四苦八苦しながらも、なんとか水橋さんのOKをもらえたガチ君としおりんだった。

### ▶第144回の舞台裏◀

トークの中で水橋さんや小寺さんが毎回言っている通り、ラジオに投稿されたおたよりの中で採用されたものは、すべてキープされて、読まれる時を待っているのだ。今回も半年以上前のおたよりが読まれているので、投稿して読まれなかった場合でも油断せず、放送をチェックしてってみよう。





## 第145回-第147回　森田成一（『閃の軌跡Ⅱ』レクター・アランドール役）

145-147回のゲストは、『空の軌跡』（リベール王国）、『零／碧の軌跡』（クロスベル自治州）、そして『閃の軌跡』（エレボニア帝国）と、国、時代を問わず登場してきた人気キャラクター・レクターを長年演じられている森田成一さんが、ついに初登場。森田さんなりのレクター観を披露。そしてクイズコーナーでは、キレ者のレクターにも負けず劣らずの推理力を見せ付けた森田さんであった。そして、しれん課のコーナーでは、夏恒例（？）の怪談が登場。衝撃の結末に、コテさんも思わずご乱心となった。

### ▶第145回-第147回の舞台裏◀

小寺さんに負けず劣らずの「怪談嫌い」であることを打ち明けた森田さん。オープニングコーナーをブース外で聴いていた森田さんは、早くもこれが「聴いたらマズイものだ！」と察知。放送でも語られた通り、スタッフさんに終わったら教えてもらえるよう頼み、音楽に没頭したのだった。

## 第148回　なし（おたよりスペシャル）

148回も、144回に引き続きおたよりスペシャル回。まずはオープニングトーク後、おたよりスペシャルの前に、ファルコム川柳のコーナーがスタート。多くの投稿の中で、「アドルさん　漂流したまま　今いずこ」の1本が、「ミズさん賞」をゲット。賞品（？）としてみんなから「おめでとう」の言葉を贈られた。そして、「ティオのつぶやき」のコーナーでは、夏休みということで、久しぶりに水橋さんが演じている「那由多の軌跡」の主人公・ナユタのつぶやきが多く読まれることとなった。

### ▶第148回の舞台裏◀

ファルコム川柳やティオのつぶやきなどリスナー参加型企画があるが、今回は読まれやすくなるためのワンポイントをお教えしよう。それは､「シンプル」､「分かりやすく」､「ネタ被りをしない」だ。ネタになりやすい、アドル、ロイド、クルツネタは競争率が高めなので注意しよう。

### 今月のコテガキ

毎週更新とともに発表される、小寺さん直筆の「コテガキ」を少しだけご紹介！



# コテ放題

コテカナことjdkBANDボーカル小寺可南子がゲームと共に、好き放題な日々のことを描くコラム!!

## 第20回　トワ会長マジ天使！


▶PROFILE



日本ファルコムのゲームソングを奏でる専属バンド"jdkBAND"のボーカル。webラジオ「ファルコムラジオ"めんどくさいです…でもがんばります"」では声優水橋かおりさんと共にパーソナリティをつとめる。その他CMソング、ジングルなど活動は多岐に渡る。

twitter @cana_ko_tera


まいどドウモみなさま、コテ放題20回！　キリがとても良いですね。ここでクリアのご報告ができたらキレイなんですよね。ごめんね鬼編。亀の歩みで進めてる「閃の軌跡」やっと6章に突入です。東京は連日の夏日ですが画面の向こうは秋晴れ。学院祭のお話なんかも出ちゃってまぁ……青春！　学生生活をひきこもって過ごした私には、なんだか遠い世界のようだわと目を細めながらプレイしてまして。やや、決してトワ会長の例の「ビックリ衣装」にニヤニヤして目を細くしてる訳じゃないよ！　ほ、本当だよ！　リィン君が受け取ったあのメモリースティックみたいなやつマジ欲しい！　ｊｄｋのライブＢｌｕ－ｒａｙと一緒に売り出しませんかファルコムさん！







次回、「閃」編がついに最終回！
……え？美女図鑑しかやってない……

リィンの故郷・ユミルを舞台にしたドラマで
『閃Ⅱ』の雰囲気をいち早く体感しよう！

# 英雄伝説 閃の軌跡 ドラマCD 帰郷～迷いの果てに～




**ついに待望の『閃の軌跡Ⅱ』の発売月！　ということで今回は、前作のドラマCD同梱版に収録されたドラマCD『英雄伝説 閃の軌跡 ドラマCD 帰郷～迷いの果てに～』のシナリオを掲載。『閃Ⅱ』で行けるようになったリィンの故郷・ユミルの様子や、リィンが八葉一刀流の中伝目録を得る経緯。《怪盗紳士》ブルブランとの更なる邂逅と、『閃Ⅱ』をプレイする前に聴いておきたいシーンがてんこ盛りの一枚になっているぞ。**









## ■英雄伝説 閃の軌跡 ドラマCD 帰郷～迷いの果てに～

【キャスト】
リィン
アリサ
エリオット
ラウラ
マキアス
エマ
ユーシス
フィー
ガイウス
サラ
トワ
アンゼリカ
エリゼ
シュバルツァー男爵
ルシア夫人
怪盗B（ブルブラン）

■タイトルコール

リィン　「ドラマCD、英雄伝説・閃の軌跡。帰郷、迷いの果てに」

■鳳翼館・階段

リィンN　「俺達トールズ士官学院・Ⅶ組は、先日のザクセン鉄鉱山での功績を認められ、皇帝陛下から湯治場への小旅行に招待された。騒動の解決に協力してくれた、上級生達とサラ教官も一緒だ。行き先は、俺、リィン・シュバルツァーの故郷である、温泉郷ユミル。自分の道を見つけるまでは戻るつもりはない……そう思って郷を離れた身としては、複雑な気持ちだけれど、間近に控えた学院祭に備えて、みんなと骨休みをさせてもらうことにした」

【SE】階段を上る足音（複数）

宿泊先である凰翼館をエリゼに案内してもらっている一同。

エリオット「わあ……」

リィン「エリオット、上を見ながら歩くと、階段から落ちるぞ?」

エリオット「ご、ごめん。雰囲気のある建物だね」

エリゼ「こちらが、皆さんが宿泊する『凰翼館』になります。その昔、時の皇帝陛下より恩賜されたという、由緒正しい逗留施設です」

マキアス「こ、皇帝陛下から……」

ユーシス「シュバルツァー家と親交があるとは聞いていたが……」

リィン「はは、マキアスもユーシスも、そう畏まることはないさ。……それにしても、まさかエリゼが迎えてくれるなんて、びっくりしたな」

久々の兄に会えて嬉しく、飛び付きたい気持ちを自粛しているため、そっけなくなってしまうエリゼ。

エリゼ「兄様、シュバルツァー家の長女として、皆さんをご案内するのは当然です」

エリゼの凛とした態度に、惚れぼれするアンゼリカ。

アンゼリカ「ここまでの道のりで見えた素晴らしいロケーション。趣のある宿泊先。そして案内役は魅力溢れるリィンの妹君。俄然温泉に入るのが楽しみになってきたね。フフ……なんだか今からのぼせてしまいそうだよ」

アリサ「アンゼリカさん……邪なことを考えていませんか?」

サラ「アンゼリカに同意するわけじゃないけど、ホントいいところねー。景色を肴に酒が進みそうだわー」

アンゼリカ「付き合いますよ、教官」

トワ「もう、アンちゃん、学生の飲酒はダメだからね」

アンゼリカ「付き合うだけさ。そうだ、トワもどうだい?」

トワ「(サラの酒癖を気にして) ええ? ど、どうしようかな?」

いつも通りすぎる、アンゼリカとサラに呆れるⅦ組メンバー。

アリサ「こ、この人達は……」

マキアス「どんな場所でも変わらないな……。突っ込みたい気持ちはわかるが、あきらめろ、アリサ」

ガイウス「それだけ、腹が座っているのだろう」

フィー「ガイウス、うまい。物は言いようだね」

ガイウス「ありがとう、フィー」

リィン「はは……みんな気に入ってくれたみたいで何よりだ。来られなかったメンバーがいたのは、本当に残念だな」

■凰翼館・2階

エリゼ「お部屋はこの2階に用意してあります。今いる共用のロビーを挟んで左側が男性の皆さんのお部屋。右側が女性の皆さんのお部屋になります。上級生の皆さんやサラ様にも、それぞれ別室を用意させました」

アンゼリカ「私としてはトワもアリサ君達もギュウギュウ詰めの同室で良かったんだがねぇ」

アリサ「私は別室で安心しました……」

エリゼ「ふふ、何かありましたら、従業員をお呼びください。陛下から言付けを賜り、誠心誠意もてなすと張り切っておりましたので」

トワ「えへへ、ありがとうございます」

エマ「さっそく、部屋に荷物を置かせてもらいましょうか」

リィン「あ、委員長、ちょっと待ってくれ。学院祭でやるステージの打ち合わせをしたいから、Ⅶ組のみんなは荷物を置いたら、ロビーに集まって欲しい」

エマ「わかりました」

リィン「それじゃ、一時かいさ――(解散)」

引きとめようかと迷っているエリゼに気付く、リィン。

リィン「……ん？　どうした？　エリゼ」

エリゼ「あ。兄様、その……」

リィン「(悟って) ……はは、心配しなくても屋敷には後で顔を出すさ。中途半端に帰ってきて、父さん達もエリゼと同じで、呆れているかもしれないけどさ」

エリゼ「そ、そんなことはありませんっ！　私だって、とっても楽しみに……！」

リィン「え？」

エリゼ「(はっとなって) ……っ。と、とにかく、お待ちしていますから！　それでは皆さん、失礼いたします！」

慌てて去っていってしまうエリゼ。

ガイウス「フフ、微笑ましい限りだ」

アンゼリカ「うーん、やはり可憐だ。あの子を見ていると、私のリビドーがどうにも抑えられなくなってくるよ」

リィン「あのですね……」

ラウラ「フフ、妹御の可憐さについては同意だな。リビドーとやらについては理解しかねるが……」

リィン「(溜息まじりに) はは、ラウラは理解しなくていいさ……」

■凰翼館・2Fロビー

部屋に荷物を置き終わり、ロビーに集まっているⅦ組。

【SE】椅子から立ち上がる音

リィン「みんな、集まったみたいだな」

アリサ「ええ」

マキアス「打ち合わせが出来るということは、学院祭のステージ内容が詰め終わったということか？　演目は聞いたが、肝心の構成を聞いていなかったな」

ユーシス「フン、随分と勿体ぶったものだ」

リィン「すまない。でも、エリオットとクロウのおかげでなんとかまとまったよ」

エリオット「実習明けに伝える予定だったんだけど……小旅行をすることになるなんて、思ってなかったからさ」

ラウラ「確かに。それなら致し方あるまい」

エリオット「クロウは僕とリィンに任せるってことだから、さっそく発表するよ。演奏する曲は2曲。必要なのは導力楽器を演奏する演奏班・バンドと、男女のボーカルと、バックダンサーだね」

ガイウス「ふむ、かなり本格的だな」

マキアス「に、2曲もやるのか……しかもバックダンサーまで」

エリオット「お客さんも1曲じゃ物足りないと思うし。インパクトを考えると、バックダンサーは必要かなって思って」

フィー「ま、エリオットがそう言うなら」

ユーシス「フン、見込みがあるなら、特に拒む理由はない」

エリオット「これが、ステージの構成と、当日の衣装案」

【SE】紙を広げる音

内容に、驚くメンバー。

エマ「え……！？」

紙にかかれた担当を読み上げるラウラ。

ラウラ「ふむ……。リードギターがリィン、サイドギターがアリサ、ベースがガイウスか。(探して) 私は……」

ガイウス「ラウラは、ドラムだな。そして、バイオリンとキーボードがエリオット……」

フィー「あ、バックダンサーがわたしとミリアム。あと……(意外) 1曲目のボーカルがマキアスとユーシス、2曲目がエマ……？」

マキアスとユーシス、受け入れられない。

【SE】机を叩く音（ふたり分）

マキアス&ユーシス「ちょっと待った!!」

マキアス「こ、こいつと僕がふたり組のボーカルだと!?」

ユーシス「しかも、同じ衣装を纏ってなどと……！」

マキアス「ひ、ヒラヒラしてるぞ!?」

エリオット「（勢いに押される）えーっと。王子様みたいで、格好いいでしょ?」

アリサ「うーん、割と女子ウケはいいんじゃないかしら」

フィー「ふたりなら、けっこう映えるかも」

エリオット「（勇気づけられて）だ、だよね? インパクトもあると思うんだ。マキアス、I組に負けたくないんでしょ?」

マキアス「（その通り）そ、それは……」

リィン「俺もフォローでボーカルに入るから、ふたりともなんとか頑張ってみないか?」

ユーシス「（反対しづらい）クッ……」

ガイウス「フフ……折れるしかなさそうだな」

エマ「え、えっと、2曲目はさすがに、冗談ですよね?」

エリオット「ううん。これがベストっていうのが、クロウの意見。眼鏡を外してギャップを出して、脇をフィー達で固めれば完璧なんだって」

エマ「ギャ、ギャップって言われても……」

アリサ「なるほど……」

エマに近づき、眼鏡を外すアリサ。

エマ「アリサさん!? め、眼鏡を返してくださいっ」

アリサ「じっとしてて」

エマの髪をほどき、ブラシをかけるアリサ。



【SE】髪にブラシをかける音

エマ「あ、あのっ!?」

アリサ「……はい、できたわ。眼鏡を外して、髪を降ろしただけだけど、どう?」

見とれる男性陣と、喜ぶ女性陣。

マキアス「こ、これは……！」

ガイウス「ふむ、これは見違えたな」

リィン「ああ……さすがに驚いた」

アリサ「うんうん、前々から勿体ないって思ってたのよ」

ラウラ「ふむ、普段からこちらのほうがいいのではないか?」

エマ「そ、そんな……からかわないでくださいよ〜！」

フィー「わたし達がその委員長の脇を固める。結構よさそう」

エマ「で、でも……こんな肌が露出する衣装で、ボーカルだなんて」

リィン「これでも女性の衣装は、初期案から大分露出を抑えてもらったんだ……少し大胆だけど、曲のイメージに合ってるとは思う」

ラウラ「まあ確かに、品性を疑うほどではないか……。それにしても、初期案はどれほど過激だったのだ?」

リィン「あはは……」

アリサ「（ため息交じり）うーん、曲のイメージに合ってるって言うなら……観念するしかないみたいね。エマ、私もボーカルのフォローに割り当てられているし、一緒に頑張りましょう」

エマ「え……と……その。（諦めてため息）はぁ……わかりました。なんとかやってみます」

ガイウス「しかし歌はともかく、演奏はなんとかなるのか? 『ベース』とやらは、まったくやったことがないが」

ラウラ「私も楽器自体、ほとんど触れたことがないくらいだ」

エリオット「うん、今回は『導力楽器』を使うんだけど……。ガイウスはシタールが弾けるから、導力ベースもこなせると思うんだ。ラウラのリズム感とパワーは絶対ドラム向きだと思うし……リィンはリュート、アリサもバイオリンの経験があるから、なんとかなると思う」

アリサ「（不安）そ、そういうものかしら」

リィン「この点は、さすがに心配ではあるんだけど……エリオットの見立てだし、練習さえ頑張ればなんとかなる気はするんだよな」

エリオット「（笑顔・ちょっと怖い）まあ、駄目なら弾けるまで練習してもらうだけだけどね」

エリオットの威圧感を感じて、戸惑うメンバー。

リィン「（冷や汗）う……」

エマ「（小声）え、エリオットさん、なんだかちょっと怖いんですけど……」

マキアス「（小声）音楽に関しては真剣そのものだからな……」

ガイウス「ふむ……概要は了解した」

ラウラ「私も乗った。皆と切磋琢磨できるなら、やり甲斐もあるというものだ」

マキアス「……せっかくリィンやエリオット達が頑張ってまとめてくれたんだ。なんとか実現させるのが筋か」

ユーシス「腹を括るしかあるまい」

エマ「そうですね……」

リィン「ひとまず、大体の方針はこれで決定にしよう。学院に帰ったら、すぐに練習を始めないとならないだろうけど、その分、今日と明日の二日間はしっかりと英気を養ってくれ」

【SE】紙を仕舞う音

リィン「それじゃあ解散。この後は、夕食まで自由行動だ」

フィー「（了解の意味）ヤー」

【SE】椅子から立ち上がる音（複数）

エリオット「リィン。この後はどうするの？」

リィン「そうだな……。エリゼと約束もしたし、実家にちょっと顔を出してみようかな？」

アリサ「ちょっとなんて言わずに、ゆっくりしてきたら？」

リィン「でも……」

ガイウス「半年ぶりの故郷なのだろう？　俺達に遠慮するな」

リィン「うーん。それじゃあ……お言葉に甘えて」

ユーシス「行ってくるがいい。いずれ男爵閣下に挨拶をさせてもらうつもりだが、家族の団欒を邪魔するつもりはない。明日にでも伺わせてもらおう」

リィン「わかった、伝えておくよ。それじゃあ、行ってきます」

■男爵家前

屋敷へとやってくるリィン。

【SE】門を開ける音

リィン「この門をくぐるのも、半年ぶりか……」

リィンM「五歳から十七歳までの十二年、ここで過ごしたんだよな。忘れてしまいたい、忌まわしい記憶もあるけど……俺にとってはそれ以上に、温かくて大切な場所だ」

【SE】扉を開ける音

屋敷から、ルシア・シュバルツァー男爵が出てくる。

リィン「あ……」

ルシア「お帰りなさい、リィン」

シュバルツァー「よく戻ったな」

リィン「ただいま戻りました……父さん、母さん。（後ろめたい）その、こんな形で帰ってきてしまって」

【SE】抱きしめる音

リィンをぎゅっと抱きしめるルシア。

リィン「……っと」

ルシア「ふふ、子どもが家に帰るのに、理由はいりません。こうして……母親が子どもを抱きしめることにも」

リィン「母さん……」

話し声を聞き、エリゼも玄関へと駆けつける。

エリゼ(off)「父様、母様？ 兄様がいらっしゃったの？」

リィンを抱きしめているルシアを見て、驚くエリゼ。

エリゼ「ああ……!!」

リィン「エリゼ？」

エリゼ「ず、ずるいです母様！ 私は皆さんの手前、我慢して……!」

リィン「へ？」

エリゼ「はっ!!」

ルシア「ふふ。まったく、いつもそう素直なら安心なのだけど」

エリゼ「（赤面）か、母様……!」

シュバルツァー「ははは、なにはともあれ、こうして家族全員揃ったんだ。お茶でも飲みながら、ゆっくり語り合おうじゃないか」

リィン「（微笑みまじり）……そうですね」

ルシア「リィンの学院の話を、ぜひ聞きたいわ。ですから、あなた、狩りの話はほどほどにしてくださいね？」

シュバルツァー「ふふ、気をつけるよ」

リィン「今日も狩りに出かけていたんですか？」

シュバルツァー「ああ、子ども達の久々の帰郷だ。しかも息子は学友達と共に陛下よりお褒めの言葉を賜っている。せめてユミルの物を仕留めて、もて成さなければな」

リィン「きっと、みんな喜びます」

ルシア「さあ入って。すぐにお茶の用意をしますから、リビングでくつろいでいてくださいな」

リィン「はい」

■男爵家・リビング

お茶の用意をしている間、リビングで語らっているリィン・エリゼ・シュバルツァー。

シュバルツァー「そういえば、リィン。ふた月ほど前に、老師と会ったぞ」

リィン「ユン老師に!? 本当ですか……!?」

シュバルツァー「ああ、相変わらずご壮健でいらっしゃった。気を抜いていたら、飲み比べで負けてしまったよ」

エリゼ「（呆れ）ふう……何をしていらっしゃるんですか」

シュバルツァー「ははは」

リィン「……俺については、何かおっしゃっていましたか？」

シュバルツァー「……ああ」

【SE】手紙を取り出す音

懐から手紙を出し、リィンに差し出すシュバルツァー。

リィン「……手紙？」

シュバルツァー「老師から預かった。……読んでみるとよかろう」

リィン「は、はい」

手紙に目を通すリィン。

【SE】紙をめくる音

リィン「これは……」

エリゼ「どうしました？」

リィン「はは……相変わらず自由に過ごされているみたいだ。大陸各地をのんびり放浪しているらしい。そんな近況報告と、俺への、ある言葉が書かれている」

エリゼ「師としてのお言葉ですか？」

リィン「ああ、これさ」

手紙を覗きこむエリゼ。

エリゼ「『お前に授けた《七の型》は〝無〟。そして〝有ること〟と〝無いこと〟はそもそも同じ、その意味を今一度考えてみろ』……ですか」

シュバルツァー「（深刻そうな息）…………」

リィン「どうやら老師は、気付いていたみたいですね」

エリゼ「え？」

リィン「その言葉は、老師に弟子入りして最初に教えてもらった言葉だ。俺が未だに、その意味を掴めないでいることを……そして、色々な意味で迷っていることを、老師は見抜いていたということさ」

エリゼ「あ……」

シュバルツァー「老師からの宿題というわけだ。仲間と湯にでも浸かりながら、せいぜい考えてみるがいい」

リィン「……はい」

そこへ、ルシアがキッチンから声をかけてくる。

ルシア（off）「あなた、すみません。ジャムの蓋が固くなってしまって……開けてくださらない？」

シュバルツァー「ああ、今行く」

【SE】椅子から立ち上がる音



キッチンへと去っていくシュバルツァー。

エリゼ「そろそろお茶の仕度も整うみたいですから、難しい話はこのくらいにしましょう」

リィン「ああ、そうだな」

エリゼ「そうだ兄様。今夜は屋敷でお休みになるんでしょう？」

リィン「あ、すまないエリゼ。お茶を飲んだら凰翼館に戻るよ」

エリゼ「そんな……今日くらい、いいじゃないですか」

リィン「今回の帰郷はあくまで陛下のご厚意によるものだからな。食事も宿泊も、なるべく士官学院のみんなと過ごすのが筋だと思うんだ」

エリゼ「（不満そう）理屈はわかりますけど……」

納得いかないが、諦めるエリゼ。

エリゼ「……仕方ありません。あ、明日もちゃんと来てくださいねっ」

リィン「ああ、わかってる」

■男爵家・キッチン

リィンとエリゼの会話を、キッチンで微笑ましく聞いている夫妻。

エリゼ（off）「絶対ですからね！？」

リィン（off）「わ、わかってるって……」

ルシア「あらあら。兄様を避けるように女学院に行ってしまった子はどこに行ったのかしら？」

シュバルツァー「三年前、リィンが養子だと知った頃合いだったか」

ルシア「それまでべったりだったのに、いきなりよそよそしくなって……。よほど混乱したんでしょう。（ため息）はぁ……リィンがあの子をお嫁にもらってくれれば、万事おさまるのですけど」

シュバルツァー「む……。よく出来た息子だとは思うが、そう

簡単に娘はやれんぞ?」

ルシア「大人げないですよ、あなた。ふふ……でも、学院のお嬢さん達も素敵だと言う噂ですし、未来がどうなるかは、誰にもわかりませんわね」

シュバルツァー「未来……か。この帝国で過ごしている子ども達が、無事に、望む〝未来〟を掴めるといいのだが――」

■鳳翼館・食堂

【SE】食器の音

戻った鳳翼館で、みんなと食事を摂っているリィン。

アリサ「リィン、良かったの? ご実家で夕食を摂らなくて」

リィン「ああ。エリゼも久しぶりに親に甘えたいだろうし、たまには水入らずで父さんや母さんたちとゆっくりさせてやらないと」

エリゼの気持ちに気付いているため、呆れるアリサ。

アリサ「あなたって、つくづくわかってないわよね。妹さんも苦労するっていうか……」

リィン「へ?」

アリサ「なんでもない」

同じテーブルで、夕食に舌鼓を打っているメンバー。

エリオット「（もぐもぐという咀嚼）……。はぁ〜おいしいねぇ」

フィー「どれも、自然が豊かな場所ならではの料理って感じ」

ラウラ「こちらの野鴨など実に風味豊かだ。たしか男爵閣下が仕留めたのだったな?」

リィン「ああ、父さんの一番の趣味でさ。俺も何度も連れていかれたっけ」

ユーシス「シュバルツァー男爵の狩猟好きは風の噂で聞いたことがあるが……」

マキアス「ふむ、貴族の嗜みというやつか」

ガイウス「フフ、俺も故郷を思い出すな」

エマ「料理に使われている野菜やハーブも、瑞々しくて彩り豊かですね。こちらはリィンさんのお母様が育てられたとか?」

リィン「ああ、母さんの方は菜園をやっててさ。そっちはよくエリゼが手伝ってたっけ」

サラ「いっつも君達は、実習でご当地料理巡りができて羨ましかったのよね〜。今回はあたしも楽しめて嬉しいわー」

リィン「（呆れ）グルメ旅行をしていたわけじゃないですが」

フィー「そう言うサラもなんだかんだで行く先々にいたよね。どうせ裏でちゃっかり楽しんでたんだろうけど」

サラ「ギクッ」

アリサ「（呆れ）サラ教官……」

アンゼリカ「フッ、君達も今のうちに骨を休めておきたまえ。戻ったら、すぐに学院祭の準備があるんだろう?」

リィン「はい。出し物の内容が決まったので、後は練習次第ですね」

エリオット「とにかく猛練習してもらうから、（笑顔・少し怖い）みんな、覚悟しておいてよね」

ユーシス「だから、お前のその威圧感はなんなんだ」

マキアス「はあ、本当に容赦してくれなさそうだな」

トワ「えへへ……せめて学院祭は、楽しいものにしていきたいね。せっかく帝国各地も落ち着いてきたところだし」

リィン「あ……」

トワの言葉に、深刻な雰囲気になる一同。

アンゼリカ「そうだな……」

リィン「《帝国解放戦線》……。ルーレでの事件以来、完全に姿を消したようですが……」

エマ「彼らは本当にいなくなったんでしょうか?」

サラ　「彼らが乗っていた飛行艇が撃墜され、テロリストは主要メンバーをまとめて失ったことになる。他の幹部がいた気配もないし、事実上、完全に消滅したと言っていいのかもしれないわ」

フィー　「うん。残党がいたとしても、幹部がいなければ、正直、烏合の衆だし」

サラ　「ただ、飛行艇を撃墜した犯人は見つかっていないから、謎は残されたままね……」

マキアス　「後の問題は、各地の貴族派と革新派の対立か。陛下が釘を刺したこともあって、おさまってきてはいるようだが……」

ユーシス　「それもあくまで表面的なものだろう。未だに帝国各地で火種は燻り続けている」

リィン　「帝国の抱えている問題は、根本的に解決されたわけじゃない、か……」

トワ　「(励ますように)だからこそ、今は学院祭を盛り上げればいいんじゃないかな?」

アンゼリカ　「確かに。トールズ学院祭は、貴族から平民までさまざまな関係者が訪れ、同じ空間で同じ楽しみを共有できる、得難いイベントだ」

トワ　「うん。それに、Ⅶ組のみんなは貴族の人も平民の人もいるんだし、そんなクラスが頑張ったら、見ている人達の認識も少し変わるんじゃないかな?」

ラウラ　「我らの頑張り次第で人々の認識を変えるか。ふふ、やりがいがありそうだ」

エリオット　「僕達の手で最高のステージを作り上げなくちゃね!」

リィン　「ああ、頑張ろう!」

■凰翼館・1Fロビー

リィンN　「夕食の後、俺達は男女にわかれて、大浴場に行き、ここ数日で溜まった疲れを、存分に癒すことができた。風呂上がりにはビリヤードや枕投げなどで興じつつ、普段しないような四方山話もあちこちで花を咲かせ……ユミルの夜はゆっくりと更けていく。……皆が寝静まった頃、俺はひとり、露天風呂へと向かっていた。あることが気がかりで、目が覚めてしまったのだ」

【SE】虫の声

リィンM　「ユン老師からの手紙……。俺が、〝道〟を見い出せない理由……俺自身の心の在り方に、関係しているのかもしれない」

露天風呂の途中に通ったロビーで、アンゼリカを見つけるリィン。

アンゼリカは、いつもと違い儚げな雰囲気。

【SE】グラスの氷が揺れる音

アンゼリカ　「(考えごとをしている)……ふぅ」

リィンM　「あれ?　あそこにいるのは……」

リィン　「アンゼリカ先輩?」

アンゼリカ　「やあ、君か。こんな時間まで夜更かしかい?」

リィン　「はは、アンゼリカ先輩こそ。ロビーで何を?」

アンゼリカ　「なに、ひとっ風呂浴びたら夜景を眺めたくなってね。せっかくだから、君も一緒にどうだい?　飲み物くらいは奢らせてもらうよ」

リィン　「(戸惑い)えっと……」

リィンM　「先輩、なんだかいつもと雰囲気が違うような……」

アンゼリカ　「おや、どうしたんだい?」

リィン　「い、いえ。それじゃあ、お言葉に甘えて」

アンゼリカ　「そうこなくちゃ。フフ、君とサシで話すのも久しぶりな気がするね。学院生活は楽しめているかい?」

リィン　「はは、半年も過ぎたのに、まだまだ忙しいまま……でも、学院祭も近づいて、すごく充実しているのを肌で感じています」

アンゼリカ　「それは何よりだ。色々あったが、実習結果も学業も頑張っているみたいだし順風満帆って感じじゃないか?」

リィン　「まだまだですよ。(少し気落ちして)気がかり

なことも、同じくらいありますしね」

アンゼリカ「……君の〝力〟のことかな？」

リィン「え……っ？　わかるんですか？」

アンゼリカ「おおまかな事情は聞いているからね。故郷に戻って改めて自分を見つめ直してみたら、さらにドツボにハマってしまった……。そんな顔をしているよ」

リィン「先輩の言う通りです……。自分が〝何〟なのか、進むべき道はどこにあるのか……ここに来て、またわからなくなってしまいました」

アンゼリカ「ハハ、焦ることはないさ。君はまだ一年生だ。時間はたっぷり残されているし、仲間たちもいる。（昔を懐かしみ）親しい仲間となら、どんなことでも乗り越えられる……君はⅦ組で過ごしてきて、そんな気持ちになったことはないかい？」

リィン「それは……。あります」

アンゼリカ「なら、大丈夫だ。その気持ちをぜひとも大切にするといい。答えなんて、仲間と学院生活を過ごすうちに、いつの間にか見つかるものだよ。〝（強調）今しか手に出来ないかけがえのないもの〟……それが青春ってものだからね」

アンゼリカの言葉にひっかかるリィン。

リィン「……？」

アンゼリカ「おや、さすがにクサかったかな？」

リィン「いえ……もしかしてですが、先輩こそ何か、抱えているんじゃありませんか？」

アンゼリカ「フッ………。いつ言おうかと思っていたが、君からチャンスをもらうとはな」

真剣な目でリィンを見つめるアンゼリカ。

アンゼリカ「リィン君、折り入って頼みたいことがある」

リィン「は、はい」

アンゼリカ「私の導力バイク、君がもらってくれないか？」

リィン「（愕然として）な……っ」



アンゼリカ「……意味は、君ならわかるだろう？」

リィン「……もしかして、士官学院を辞めてしまうんですか？」

アンゼリカ「……この旅行から帰り次第な。我が親父殿は、昔からどうも頭が固くてね。先日の鉄鉱山での一件で、私がでしゃばったのが大層気に食わなかったらしい」

リィン「《四大名門》の一角、ゲルハルト・ログナー伯爵……」

アンゼリカ「勝手に退学届けを出されてしまってね。どうやら、しばらく自宅謹慎に処されることになりそうだ」

アンゼリカ「そんな……！　なんとかならないんですか！？　学院長達の力を借りれば……！」

アンゼリカ「《四大名門》の意向に逆らえば、士官学院の運営にも影響が出る。学院長の配慮で休学扱いにはなったけれど、実質退学も同然だろう」

諦めたように苦笑するアンゼリカ。

アンゼリカ「フッ、まあ、予想できていた結末さ。……そんな状況だから、導力バイクなど持って帰ったら取り上げられてしまいそうでね。あれは、トワたちと一緒に作ったものだから、せめて誰かに託したいと思っている」

リィン「先輩……」

アンゼリカ「私達の試験運用を元に立ちあげられたⅦ組……。そのリーダーである君になら、安心して任せられる。受け取ってくれないか？」

リィン「（しばらく考える）…………。すみません、少し、考えさせてもらってもいいですか？」

アンゼリカ「もちろんさ。あと、学院祭くらいはなんとか見に行くつもりだ。そちらも仲間とせいぜい頑張りたまえ」

リィン「はい……」

【SE】椅子から立ち上がる音

アンゼリカ「フフ、話に付き合ってくれて感謝するよ」

リィン「いえ、こちらこそ。相談に乗っていただいたおかげで、気が楽になりました」

アンゼリカ「それは何よりだ。それじゃあ、良い夢を」

リィン「おやすみなさい」

去っていくアンゼリカ。

【SE】去っていく足音

リィン「(ぽつりと呟く)……ふぅ。ユン老師にアンゼリカ先輩……。宿題、ちょっと多すぎだろ」

■鳳翼館・露天風呂

露天風呂にやってくるリィン。

【SE】扉を開ける音(ガラガラ)

リィンM「風呂に入って、頭を切り換えよう……。この時間は混浴だけど、さすがに誰も入ってないだろうから、考えごとにはもってこいだし」

【SE】岩の上を歩く足音(ペタペタ)

ラウラ(off)「ん? 誰か来たみたいだぞ?」

アリサ(off)「もしかして、エマ達も眠れないのかしら?」

リィン「ん……?」

リィンの姿を見て、驚くラウラとアリサ。

ラウラ「な……!?」

アリサ「え……!?」

リィン「へ……?」

やっとふたりの存在に気付くリィン。



リィン「う、うわあああああ! アリサ!? ラウラ!?」

アリサ「きゃあああああ!!」

湯船に肩まで浸かるアリサ。

【SE】水しぶきの音

アリサ「女風呂に入ってくるなんて、なんのつもりよ……!!」

リィン「ま、待ってくれ、違う……!」

ラウラ「(怒り)リィン……」

リィン「へ……?」

リィンに向けて、長い木の棒を構えているラウラ。

ラウラ「——そこになおるがいい」

リィン「ラ、ラウラ!? そんな長い木の棒、どっから持ってきたんだ!?」

ラウラ「安心しろ、苦しむ暇は与えぬ」

アリサ「いいえ……ラウラ」

リィンに向かって桶を振りかぶるアリサ。

アリサ「苦しんでもらったほうが……いいわ」

リィン「アリサ、お、桶! 桶を置いてくれ! というか、ふたりとも! まず俺の話を聞いてくれ!」

ラウラ「——問答無用!」

リィン「ひ、ひぃ……!」

アリサ「こっの……!」

ラウラ「成敗!」

アリサ「(桶を投げる)——えっち! ヘンタイ!!」

ラウラの木の棒と、アリサが投げた桶を喰らうリィン。

【SE】木の棒で脳天を打つ(バキッ)&桶が顔面に当たる(スコーン)

リィン「ぐはあっ」

そのまま、風呂に向かって倒れていくリィン。

リィン「ご、誤解……（力尽きる）だ」

【SE】風呂に落ちる音（ドッボーン）

※時間経過

【SE】桶の音（カポン）

目を覚ましたリィンに事情を聞き、慌てて謝るアリサとラウラ。

アリサ「ご、ごめんなさい！ ま、まさか今の時間が混浴だったなんて……！」

ラウラ「完全に確認を怠っていた……。加えて、あんな渾身の一撃を脳天に打ちおろしてしまうとは……！」

リィン「（ぐったり・小声）死ぬかと思った……。（なんとか体勢を立て直し）い、いや……俺もよく確認せず悪かったよ」

ラウラ「いや、こちらの落ち度だ。詫びと言っては変だが、このまま入っていくがよい」

リィン「（ぽかん）……え？」

アリサ「ちょ、ちょっとラウラ！ 何を言い出すのよ！」

ラウラ「誤解した上に、湯冷めをさせてしまうなど、申し訳ないと思ったのだが……」

アリサ「それは確かに……そうだけど」

リィン「えっと……こ、この場合、どうすれば……」

その時、花びらのように雪が降ってくる。

リィン「え……」

アリサ「あら……？ 花びら？」

ラウラ「ふむ、空から降ってくるな」

雪だと気付き、驚愕する三人。

アリサ「これって……！」

ラウラ「雪か……！？」

リィン「まさか！ まだ十月始め……いくらなんでも早すぎる！！ 一体、どうなってるんだ！？」

■凰翼館・ロビー

翌朝、凰翼館の1階ロビーにて外の景色を眺めている一同。

ユーシス「窓の向こうが、一面の雪景色だな」

マキアス「……いくらなんでも早すぎるだろう」

ガイウス「ああ、ノルドでも、なかなか見ない現象だ」

トワ「どんどん積もってきてる。これは、雪かきが必要だね」

リィン「この勢いだと、午後には相当積もるはずです。帰りに俺達が乗るケーブルカーの運行にだって支障が出る可能性が……」

そこへ、シュバルツァーとエリゼがやってくる。エリゼは元気がない。

シュバルツァー「いや、もう遅い」

エリゼ「……おはようございます、兄様、皆さん」

リィン「父さん……エリゼも……」

シュバルツァー「一通り里を見て回ったが、山の斜面にも雪だまりが出来てしまっている。ケーブルカーはしばらく運行できないだろう」

エリオット「そ、そうなんですか。昼には帰る予定でしたけど……」

サラ「しばらく、身動きが取れなくなりそうね」

エリゼが、リィンの傍に寄り、不安そうに話しかける。

エリゼ「兄様……」

リィン「ああ……」

ラウラ「……？　どうかしたのか？　深刻な顔をして」

リィン「（言い淀みつつ）……実は、八年くらい前にも、似たようなことがあったんだ」

アリサ「え……？」

シュバルツァー「そうだったな……丁度、同じ状況だ。あの時は確か三日ほど雪が降り続いたはずだ。その後、唐突にやんでしまったが……」

アンゼリカ「ふむ……何か事情がありそうだね」

シュバルツァー「ケーブルカーが復旧次第、すぐ連絡が行くようにします。……ああ、そうだリィン、従業員から、これを預かってきた。凰翼館、トールズ士官学院Ⅶ組宛てに来た郵便物だ」

郵便物を見て、驚愕する一同。

エリオット「これって、実習の封筒……！？」

リィン「どういうことだ……？」

ラウラ「差出人は書いてないようだが……」

サラ「へえ、面白いじゃない。リィン、開けてみなさい」

リィン「わ、わかりました」

【SE】封を切る音

手紙を開き、読み上げるリィン。

リィン「『（淡々と読むが、次第に驚く）Ⅶ組諸君に特別実習の課題を手配する。ユミル渓谷に赴き、季節外れの積雪を阻止せよ』……！？」

エリオット「しかも最後に、『リィン・シュバルツァー同行のこと』って書いてあるよ！？」

アリサ「『積雪を阻止せよ』って、どういうこと！？」

リィン「とても信じられないが……どうやらこの異常な雪は、何者かの仕業らしいな」

ユーシス「バカな……」

ガイウス「だが、確かにそうも読める」

フィー「それにこの文面。どこかで見たパターンのような気が」

リィン「ああ……」

サラ「さて、どうするの？」

リィン「（考え）……。行きます。この雪を降らせている何者かが俺達を呼びだしている……しかも、俺に関してはわざわざ名指しまでして。確証はありませんが、確かめないわけにはいきません」

エマ「そうですね」

アンゼリカ「フッ、頼もしい限りじゃないか」

トワ「うん、去年の試験運用を思い出すね。あの時も大変だったけど……。Ⅶ組は、わたしたちの時より、ずっといいチームに育ってくれたのかもしれないね」

リィン「みんな、さっそく向かおうっ」

ユーシス「フン、ならば準備するか」

たまらず、といった感じで、声をあげるエリゼ。

エリゼ「き、危険ですっ！」

リィン「……っ。エリゼ？」

エリゼ「だ、だって……どんな得体のしれない相手が待っているかわからないのに！　そんな場所に、兄様達を行かせるわけにはいきません！！」

シュバルツァー「……エリゼ。彼らは士官学院の生徒。危機に立ち向かう術を学ぶ者達だ。お前の兄も同じ……。見守ってあげなさい」

エリゼ「父様……っ。でも……でもっ！」

リィン「（力強く）エリゼ、大丈夫だ」

エリゼ「兄様……っ」

リィン「あの時と似た状況だけど……今回はみんながいるんだ。俺はきっと、あの日を乗り越えてみせる……だから、いい子で待っててくれ」

エリゼ「あ……」

リィン「……な？」

エリゼ「……分かりました」

不安な気持ちを振り払い、決然と顔を上げるエリゼ。

エリゼ「絶対に、無事に戻ってきてください！　もし戻ってこなかったら……私が兄様を助けに行きますから！」

リィン「ああ、わかってる」

アリサ「ふふ、リィンのことは、私達に任せて頂戴」

マキアス「ああ、きっと一緒に無事に戻ると約束しよう」

エリゼ「はい、よろしくお願いします……！」

リィン「それじゃあ、いってくるよ、エリゼ」

エリゼ「ええ、いってらっしゃいませ、兄様！」

■ユミル渓谷・中腹

ユミル渓谷を歩くⅦ組メンバー。

【SE】雪道を歩く音

リィン「ここでようやく、中腹を越えたくらいだ。この渓谷のどこかに、手紙の差出人がいるはずなんだが……」

歩きながら、周囲の様子に違和感を覚えるエマ。

エマ「（小声）この渓谷……精霊の気配を感じる。まさか、何かの封印？」

ラウラ「ふう……雪山はさすがに骨が折れるな。エマ」

エマ「え！？　そ、そうですね！　魔獣達も妙に殺気立っていますから、突破が困難ですし」

リィン「真冬でもここまでの積雪は珍しいから、興奮してしまったんだろうな」

アリサ「そういえば、前にも同じようなことがあったって話だったわね。何か事情がありそうだけど……」

リィン「ああ……」

アリサ「その……言いづらいのなら、無理に聞かないわ」

リィン「いや、みんなには、いつか話そうと思っていた。聞いてくれ」



忌まわしい記憶のため、少し辛そうに話しだすリィン。

リィン「八年前のことだ。エリゼとふたりで、渓流遊びに来ていた日……。今日と同じように、突然大雪が降り始めたんだ。慌てて里へと戻ろうとする途中、俺達は熊のような魔獣に出くわした」

【SE】魔獣の咆哮（遠くから聞こえる感じで）

リィン「その時、俺はまだ九歳で、エリゼは七歳だったから、当然、魔獣と戦う術（すべ）なんてなくて……俺は必死になって、エリゼを魔獣から庇うことしかできなかった」

※回想開始

魔獣に吹っ飛ばされるリィン。

【SE】弾き飛ばされる音（バキッ）

エリゼ（幼少）「（悲鳴のように）にいさま！？」

【SE】雪の上に倒れる音（ズザッ）

エリゼ（幼少）「にいさま、血が……！（泣きながら）にいさま、にいさま！　しっかりしてください！」

【SE】魔獣の唸り声

エリゼ（幼少）「あ……」

【SE】魔獣のゆっくりした足音（ズン、ズン）

魔獣が向かってきて、恐怖に震えるエリゼ。

エリゼ（幼少）「こ、こない……で……」

リィンN「薄れていく意識の中、近づいてくる魔獣の足

音だけが俺の耳に聞こえてきた。このままじゃ、エリゼが危ない……そう思った時だった」

【SE】ドクンっという鼓動音

リィンN「左胸のアザが焔のように疼いて……俺の視界は真っ赤に染まった」

幼少のリィンが覚醒し、立ち上がる。

【SE】雪を踏みしめる音（ザッ）

エリゼ（幼少）「……にい、さま……？」

リィンによって、魔獣が切り刻まれる。

【SE】魔獣の咆哮

【SE】ナタを魔獣に喰らわせる音（ザクッ）

【SE】血しぶきの音

※回想終了

リィン「気がついた時……俺は血の海に立っていた。俺の手に握られていたのは……枝払い用に持ってきていた、小さなナタだった。そんなものを使って、たった九歳だった俺が、巨大な魔獣を切り刻んだんだ。……それから俺は、自分の中に眠る〝力〟を恐れるようになった。いつかまた暴走して、今度はエリゼや周りの人々を傷つけてしまうかもしれないと……」

語り終え、重いため息をつくリィン。

リィン「はぁ……。これが、俺が未だに克服出来ていないトラウマさ。みんなも知っての通り、ユン老師に師事を受けた今でも、俺は自分の力を制御できていない」

苦しそうにするリィン。

リィン「もしかしたら、次はみんなを傷つけてしまうかもしれない。そうなったら俺は……！」

アリス「リィン……」

リィン「（自嘲気味）……はは……さすがに引いただろう？」

リィンの話を受け入れる一同。

エマ「……そんなことはありません」

リィン「え？」

ユーシス「……フン、見くびるな。その程度の話を聞かされて、今さら引くわけがあるまい」

エリオット「むしろ、こうして打ち明けてくれたのが、素直に嬉しいかな」

マキアス「同じく」

リィン「……っ」

フィー「まあ、そゆこと」

ガイウス「例え何が起きても、オレ達がそばにいるんだ。心配はないだろう？」

ラウラ「いつでも、そなたの力になろう」

アリサ「ひとりじゃ無理でも、みんなと一緒なら、大丈夫なんじゃない？」

リィン「みんな……（しばらくの間）……ありがとう」

吹っ切れ、気合いを入れ直すリィン。

リィン「この先は渓谷の上流だ。この異変を止めるために、改めて力を貸してくれ」

頷くアリサ、ラウラ、エリオット、ユーシス、マキアス、フィー、エマ、ガイウス。

一同「おお！」

■ユミル渓谷・上流（約10分）

【SE】吹雪の音

上流に到着する一同。

ユーシス「この辺りは、吹雪いているな」

リィン「ここが上流……渓谷の泉にあたる場所だ。いつもならここから水が湧き出ているはずだけど……今は完全に凍りついてるな」

青白く光り、不思議な紋様が浮き出ている石碑を見つける一同。

【SE】光の音（ホワン）

リィン「……ん？」

アリサ「あの石碑、なんだか青白く光ってる……。それに、不思議な紋様が浮き出ているみたい」

ラウラ「……ローエングリン城で見た、かのオーブを思い出させるが」

見覚えのある石碑に、呆然とするリィン。

リィン「ああ……確かに」

リィン、そこで、過去のことを思い出す。

リィン「あ……！」

マキアス「な、なんだ！？」

リィン「思い出した！ 八年前、俺はあの石碑に触っている！ 手に反応して、あんな紋様が浮かび上がってきて……。みるみる湧水が凍り始めたと思ったら、今みたいな大雪が降り始めたんだ！」

エマ「それは……何かしら、関係がありそうですね」

ユーシス「なぜ今まで、それを言わなかった？」

リィン「いや、すまない。俺も完全に忘れていたんだ。もしかすると、無意識のうちに記憶の隅に追いやっていたのかもしれない。俺が石碑を触ったばかりに、エリゼを危険に晒してしまったんだから」

エリオット「そんな、リィンのせいじゃないよ」



リィン「……ありがとう、エリオット。とにかく、あの石碑が大雪の元凶である可能性は高そうだ。なんとかする方法があればいいんだが……」

フィー「試しにあの石碑に爆薬でも仕掛けてみるとか？ 粉々にしてみれば異変がおさまるかも」

リィン「それは最終手段だな。まずは、一度あたりを調べてみよう」

【SE】光の増幅音

石碑の紋様がさらに輝き始める。

リィン「……な！？ なんだ……！？」

アリサ「ま、眩しい……！」

エマ「何か、途轍もない力を感じます！」

氷の封獣が現れる。

【SE】獣の大きな足音（ズゥン）

ガイウス「な……！？」

エリオット「う、うわあああああ！」

リィン「巨大な氷の魔獣！？ もしかして、あの石碑に封印されていたのか！？」

【SE】武器を構える音（複数）

ラウラ「皆、気をつけろ……！」

フィー「戦闘準備」

【SE】獣の凄まじい咆哮

アリサ「きゃあ！」

【SE】氷つく音

肩まで氷漬けにされ、身動きが取れなくなる一同。

一同「（氷漬けにされて）……っ！？」

エマ　「この人数を、一瞬で氷漬けにするなんて……！」

マキアス　「くそっ、身動きが……！」

【SE】獣の唸り声

こちらに腕を振り上げる封獣。

ユーシス　「来るぞ……！」

ガイウス　「くっ、このままでは……！」

リィン　「みんな……！」

リィンM　「こんなところで、やられるわけにはいかない！　だけど、どうすればいい……！？」

※回想（エコーをお願いできればと思います）

エリゼ　「『お前に授けた《七の型》は〝無〟。そして〝有ること〟と〝無いこと〟はそもそも同じ、その意味を今一度考えてみろ』……ですか」

アリサ　「ひとりでは無理でも、みんなと一緒なら、大丈夫なんじゃない？」

※回想終了

リィン　「あ……」

【SE】ドクンという鼓動の音（しばらく背後で流れる）

リィン　「……そうか」

リィンM　「あの力と同じ、目を背けていても、あれは俺の一部なんだ。『無念無想』……まずは、あるがままの自分を認めることからか！」

【SE】最後に、ドクンという大きな鼓動音

リィン　「（気合いをこめる）……はあああぁ……」

アリサ　「リ、リィン！？」



リィン　「はぁ！」

【SE】氷が砕ける音（大きい）

リィンの掛け声とともに、全員の氷の拘束が解かれる。

ユーシス　「む……っ！？」

マキアス　「う、動ける……！」

リィン　「（何かみなぎっているように呼吸）すぅ……はぁ……」

ラウラ　凄まじい闘気がリィンの身に宿っている……！」

ガイウス　「これがリィンの、真の力……！」

リィン　「みんな行くぞ！　全力をもって、目標を撃破する……！」

エマ　「わかりました！」

【SE】封獣の凄まじい咆哮

封獣が、また氷漬けにさせようと咆哮を上げる。

エリオット　「う、うわあぁ！　また氷漬けにされる〜！！」

マキアス　「させるか！！」

ショットガンで、封獣の咆哮を止めるマキアス

【SE】ショットガンを打つ音（2・3回）

【SE】封獣の苦しむ声

封獣がひるんだ瞬間、跳躍するフィー。

【SE】跳躍の音

フィー　「さっきのお返し。起爆っ」

【SE】短い爆発音（2回）

フィーと連携して、獣に向かって一太刀浴びせるラウラ。

ラウラ 「はあああああ！」

【SE】斬る音（ザンッ）

【SE】封獣の悲鳴

怯む封獣。

ユーシス 「今だ、リィン！」

ガイウス 「アリサ、リィンの援護を……！」

アリサ 「わかってるわ……！」

【SE】弓を射る音

【SE】雪道を走る音

アリサの援護のもと、封獣へ向かって駆けるリィン。

リィン 「うおおおおおお！」

リィンM 「エリゼと約束したんだ！ 必ず無事に戻ってくると！ 〝（強調）あの日を〟乗り越えると……！」

リィン 「たあああああ！」

封獣を一刀両断するリィン。

【SE】一刀両断の音

【SE】封獣の断末魔

リィン 「はぁ……はぁ……はぁ」

【SE】封獣の倒れる音（ズゥン）

【SE】封獣が消滅する音（シュウウ……）

ユーシス 「魔獣が、消えていく……」

マキアス 「それに、吹雪もやんでいくぞ」

アリサ 「やったの？」

リィン 「ああ、もう気配は感じない。石碑に封じられていた何かが、還っていったみたいだ」



マキアス 「ふう……手強い相手だったな」

アリサ 「さっきのあなた……まるで別人みたいだったわ。ふふ、なんだか殻をひとつ破ったみたいね」

リィン 「みんなのおかげさ……。みんなは俺を……俺の力を受け入れてくれた。だからこそ、俺は自分自身を受け入れることができたんだ。ありがとう、みんな」

ガイウス 「フフ……そうか」

エマ 「……とにかく、よかったですね。異変もおさまりましたし、これで一件落着でしょうか」

リィン 「（思案の息）……」

エリオット 「はぁ……ほっとした～」

リィン 「……いや、まだだ」

ユーシス 「（訝しげ）なんだと？」

辺りを警戒しながら叫ぶリィン。

リィン 「いい加減、高見の見物は終わりにしたらどうだ！ 姿を現してもらうぞ……怪盗Ｂ！」

マキアス 「な……！？」

【SE】拍手の音

拍手をしながら、姿を現す怪盗Ｂ。

怪盗Ｂ 「フフ、いいものを見せてもらったよ。そしてよくぞ我が正体を見たり。その慧眼には素直に敬意を表そう」

エリオット 「あ、あの人は！」

ラウラ 「ふむ……怪盗Ｂだったか」

フィー 「崖の上から、全部見てたんだね……」

リィン 「帝都で遭遇してから三カ月ぶりくらいか……。今回のユミルの異変はあなたの仕業だな？」

怪盗Ｂ 「いかにも」

リィン 「どうしてこんなことを！？」

怪盗Ｂ 「チッチッ、質問が違うのではないかね？ 君はこう尋ねるべきだ……『どうして自分に興味を示すのか』と」

リィン「なっ！？」

怪盗B「クク……改めて名乗らせていただこう」

【SE】マントを翻す音

恭しく礼をする怪盗B。

怪盗B「《身喰らう蛇》が執行者ナンバーX。《怪盗紳士》ブルブラン。身知りおき願おうか、士官学院・Ⅶ組の諸君？」

ユーシス「《身喰らう蛇》だと！？」

アリサ「それって、人形兵器の秘密結社！？　あの怪盗Bが！？」

フィー「テロリストと手を組んでいたのも、あんた達か!?」

怪盗B「フフ、誤解があるようだから先に断っておくとしよう。我らは歴史の影に蠢く者。彼らの主義主張に興味はない。ただ、それが導く流れに意味を見い出したから手助けしただけのこと……。私がここに現れたのは、あくまで〝（強調）君達自身に〟興味があったからだ」

リィン「何！？」

怪盗B「トールズ士官学院、Ⅶ組……。我が美のライバル、オリヴァルト皇子が提案し、運命的に集められた若者たち。それぞれ魅力的な過去や背景をまとう君達に、私は興味をそそられてやまない。隠された、〝美〟に焦がれる怪盗としての興味をっ。……とりわけ、リィン・シュバルツァー。（声を張り）君の真実のようにっ」

リィン「……それはっ！」

怪盗B「十二年前、ユミルの男爵が吹雪の中で拾ったという子ども。果たして平民なのか、貴族なのか、帝国人なのか、外国人なのか、一切わからない。そして謎めき、得体の知れぬ力におびえ、《剣仙》の指南を受けた少年」

悦に入る怪盗B。



怪盗B「おお、なんと魅力的で謎めいた真実……！　私はそれが知りたいのだよ！」

リィン「（冷静になって）真実……」

アリサ「ふ、ふざけないで！　リィンの気持ちも知らないで、勝手なことばかり言って！」

エマ「（静かな怒り）悪趣味です……」

リィン「（力強く）――いいんだ、みんな」

怪盗B「……ん？」

リィン「怪盗ブルブラン、はっきりと言わせてもらう。あんたには無理だ」

怪盗B「何……？」

リィン「真実を知ることと、真実を得ることは同じじゃない。……単なる知識以上のことを俺達が特別実習で得たように……真実というものは経験や体験を通してしか得られないものだと思う」

怪盗B「ほう……」

リィン「それは俺自身が目を逸らさずに自分と向き合い、乗り越えるべきものだ。その過程でしか真実は生まれず、それ以外のものに意味はない。たとえコソ泥ごときが何かを見つけたとしても……それは単なる真実で、俺にとっての真実じゃあない。だから……悪いが時間の無駄だ」

アリサ「リィン……」

ユーシス「フッ、言うようになったな」

リィン「（怪盗Bを睨む）……」

怪盗B「（だんだん強く）フフ……フハハハハハ！！」

上機嫌な怪盗B。

怪盗B「なるほど、クク、道理だ。真実とは、それに関わる人間の中にあるもの。私が手にするものと、君自身が見い出す真実は同じではない……気に入ったぞ、リィン・シュバルツァー」

【SE】強い風の音

花吹雪に、視界が遮られるⅦ組。

リィン「わ……！」

ガイウス「白い、花吹雪……っ？」

ユーシス「くっ、妙な真似を……！」

怪盗B「だが、刻は否応なく無慈悲に訪れるもの。その刻を前にして、君達がどのような真実を見い出すか……」

【SE】マントを翻す音

周囲に、怪盗Bの言葉が反響する。

怪盗B「Ⅶ組の行く末とともに、せいぜい楽しみにさせてもらおうっ！」

【SE】さらに強い風の音（その後すぐに止む）

姿を消す怪盗B。

エリオット「き、消えた……？」

フィー「まるで、魔法みたい」

エマ「あれが、怪盗B……」

リィン「結社《身喰らう蛇》……。どうやら、思った以上に底知れない連中みたいだな」

ラウラ「ふぅ……。そのようだな」

リィン「とにかく、雪も完全に止んだみたいだ。戻ろう」

アリサ「ええ、そうね。妹さんを安心させてあげなくちゃ」

リィン「ああ……」

■ケーブル駅

異変も解決し、ユミルを出発しようとしているリィン達。シュバルツァー男爵、ルシア夫人、エリゼが見送りに来ている。

【SE】ケーブルカーが到着する音（キー、ガタン）

ルシア「そうですか……。もう出発するのですね」

リィン「はい、予定よりも少し遅れてしまいましたが……父さん、母さん。元気で」

アリサ「本当にお世話になりました」

シュバルツァー「気をつけてな」

エリゼ「兄様や皆さんには、もっとごゆっくりしていただきたかったのですが……」

怪盗Bのことを思い出す一同。

サラ「……身喰らう蛇が、まさかユミルに姿を現すなんてね」

アリサ「今回の狙いは、あくまでⅦ組やリィンだけみたいな口ぶりだったけど……」

ガイウス「テロリストに手助けしているくらいだ。さすがに組織としての目的は他にありそうだが……」

リィン「どちらにしろ、彼はこれだけの事件を起こしてみせた。油断できない連中なのは、間違いないだろう。次に出遭う時のためにも、俺たちはもっと成長しないとな」

エリオット「うん、頑張らないと……！」

リィンの言葉に、安心するシュバルツァー。

シュバルツァー「ふふ、リィン。どうやら老師の宿題は解けたようだな？」

リィン「……はい、正しいかどうかはわかりませんが。今まで俺は……自分の中の得体知れない何かを恐れ……どこかで自分を誤魔化していました。父さんと母さん、そしてエリゼに後ろめたく思うあまりに」

ルシア「リィン……」

リィン「でも、やっぱり俺は、俺自身の真実を無視できません。この身に眠る得体のしれない力が何なのか……そして十二年前、俺を吹雪の中に残していった人は誰なのか知りたい。それが偽らざる本心です」

エリゼ「（悲しそう）兄様……」

リィン「（安心させるように）エリゼ、心配しないでく

れ。俺はどこにも行かないからさ」

エリゼ　「え……？」

リィン　「俺が俺を知りたいのは、真の意味でリィン・シュバルツァーでありたいからだ。胸を張って、大切な家族のひとりとして、そして仲間の一員としてあるために……俺はなんとしても真実を見つけたいと思うんだ」

シュバルツァー　「……。どんなに厳しい真実だとしてもか？」

リィン　「はい、受け止めるだけの器を養ってみせます。トールズ士官学院で、みんなと共に成長することで」

シュバルツァー　「そうか。良い仲間を持ったようだな」

ひと振りの剣と巻物を取り出すシュバルツァー男爵。

シュバルツァー　「――合格だ。これを受け取るがいい」

リィン　「この巻物は……！」

シュバルツァー　「八葉一刀流・中伝目録……。（はちよういっとうりゅう・ちゅうでんもくろく）お前が剣の高みへの可能性を示した時に渡して欲しいと、先日ユン老師から託されていたものだ」

リィン　「老師が……！」

シュバルツァー　「フフ、彼もお前の成長を期待してくれていたのだろう。謹んで受け取るがいい」

【SE】巻物を受け取る音

巻物を受け取るリィン。

リィン　「……確かに、たまわりました」

エリオット　「よかったね、リィン！」

ユーシス　「受け取ったからには、今後は一層励むことだな」

リィン　「ああ、もちろんだ！」

アンゼリカ　「フフ、私からも祝福させてもらおうか」

リィン　「アンゼリカ先輩……」

アンゼリカ　「この調子だと、例の返事も期待していいのかな？」

トワ　「アンちゃん……。導力バイクの件だね」

アンゼリカ　「ああ。……リィン、心は決まったか？」

リィン　「（しばらく考え）……。はい。ありがたく受け取らせてもらいます」

アンゼリカ　「そうか」

リィン　「（微笑み）でも、預かるだけですよ？　いつか先輩が戻ってくると信じていますから」

アンゼリカ　「（驚く）お……。……ハハ、これは一本取られたなっ。わかった、その時まで、君に預かってもらうとしよう」

リィン　「はい……！」

トワ　「えへへ、アンちゃん嬉しそう」

ケーブルカーの発車時間が目前となる。

サラ　「フフ、今回の旅行も、貴重な経験になったみたいね。……おっと、そろそろ時間よ」

リィン　「あ……」

家族に、改めて向き合うリィン。

シュバルツァー　「リィン、次の休暇にまた帰ってくるがいい」

ルシア　「ふふ、このユミルこそが、あなたの故郷なのですから」

リィン　「はい……！」

【SE】発車のベルの音（ジリリリッ）

エリゼ　「どうかお元気で……！　兄様、学園祭、楽しみにしていますから！」

リィン　「ああ……待ってるよ。（笑顔で）それじゃあ、また！」

【SE】ケーブルカーの扉が閉まる音

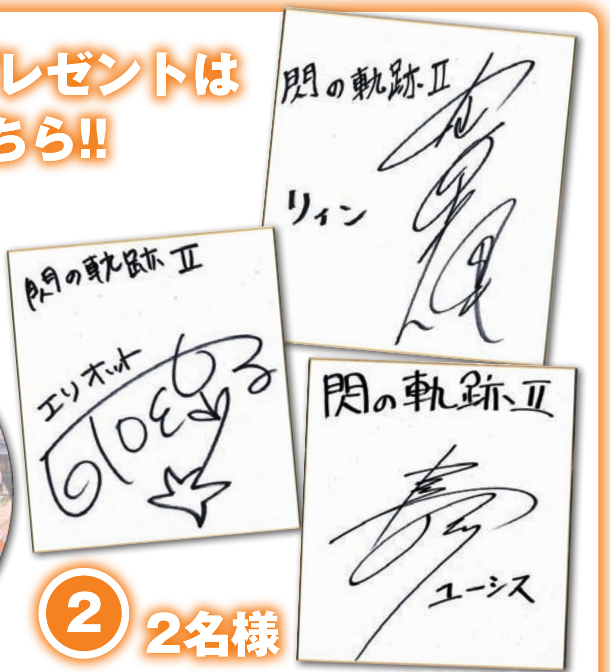
了

# FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！

## 今月のプレゼントはこちら!!




①　2名様

**❶ファルコム3Dうちわ2種セット**
コミックマーケット86のファルコムブースで配布された限定うちわを編集部がゲット！ここを逃したらもう手に入らない!?

②　2名様

**❷「英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ」Ⅶ組サイン色紙セット**
『閃』大人気御礼の特大プレゼント！リィン達Ⅶ組メンバーのキャストサイン色紙をなんとセットでお届けしちゃいます!!

## プレゼントの応募方法

こちらのアンケートの回答を下記のアドレスまでメールにてお送りください。
プレゼントの当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

宛先：
件名：vol.43　プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）
2：面白い→
　つまらない→
　（記事一覧から1つずつ）
3：①
　②
　（はい・いいえ／作品名）
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

**【記事一覧】**

1：英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ最新情報
2：軌跡シリーズ10年の軌跡
3：みんな集まれ！ファルコム学園
4：jdkバンドボーカル・コテカナのコテ放題
5：ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばりますの舞台裏
6：jdkバンドドラマー・オカジの人生半キャラずらし
7：ファルコムニュース
8：『閃の軌跡 帰郷～迷いの果てに～』シナリオ

**アンケート**

①マガジンでインタビューが読みたいクリエイターは誰ですか？
②日本ファルコムのゲーム作品で1番好きな作品は何ですか？

特設サイトからも応募ができます！
http://www.field-y.co.jp/root/index.php/falmagap

宛先はこちら➡ falmaga@field-y.co.jp　応募締め切り　9月26日

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、賞品の発送のためのみに利用し、その他の目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



FB ファルコムBOOKS

# 英雄伝説 碧の軌跡 いつか貴方とお茶会を

著者：むらさきゆきや
イラスト：窪茶




『月刊 Falcom magazine』で好評を博した『英雄伝説 零／碧の軌跡』の主人公・特務支援課がゆる～く活躍するノベライズ作品の第二弾がついに発売！　今回もゲーム本編とはひと味違った魅力満載の小説となっているぞ！

**好評発売中!!**

6月24日発売予定
定価：1,100円+税
ISBN：978-4-89610-821-7



発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら➡ www.field-y.co.jp

# 月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.43


| | |
|---|---|
| 発行人 | 田中一寿 |
| 発行協力 | 日本ファルコム株式会社 |
| 編集 | 小渕智幸<br>大場恵美子 |
| デザイン・DTP | さとうだいち |
| 表紙ロゴデザイン | 荻窪裕司（ビーニーズ） |
| 発行 | 株式会社フィールドワイ<br>〒101-0062<br>東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F<br>TEL 03-5282-2211（代表）<br>http://www.field-y.co.jp/ |
| 制作・販売協力 | シナノ印刷株式会社 |




## いよいよスタート直前 コミカライズ版『英雄伝説 閃の軌跡』イメージイラストが到着!!



ファルコムマガジンvol.42から情報をお届けしてきたコミカライズ版『英雄伝説 閃の軌跡』情報。連載直前号となる今回は、さがら梨々先生描き下ろしのカラーイラストが到着！



**次号、ついに『閃の軌跡』が連載スタート。お楽しみに!!**